

科目名	臨床人間学	
担当者	野添 新一 / NOZOE, Shin'ichi	
科目情報	心理臨床<基礎> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	科学技術の進歩は私どもの生活や生き方を急変させているが、現状はむしろ人間の能力をも凌駕しつつある。ここでは、それらを踏まえつつ先ず、文明の歴史を振り返り、現時点で明らかとなった脳科学の知見、ストレスのもたらす心身への作用とその結果について解説する。また高齢社会の到来による問題点を捉え、自らの問題として対処法を考える。更に、最近希薄となりつつある「生と死」の問題をも学習する。
	到達目標	文明化・情報化・技術化によって人間がどのような影響を受け変容しているかを学習するのが主眼である。人間の臓器の中で最も重要な脳機能について最近の知見を学習する。ストレスの心身に及ぼす影響について理解を深める。文明化によって増加する新しい病気について理解し其の予防と治療法を学習する。医療技術化にもたらされる問題を理解し自らの人生に役立てる。高齢社会を向かえてそれに随伴する問題を学習する。個人化が進み増加するトラウマ問題や希薄化する生と死のテーマについて学習する。
授業計画	(1) なぜ臨床人間学を学ぶ必要があるか (2) 脳についての新しい知見 (3) ストレスと人間 (4) 心身症 (5) 嗜癖—そのメカニズムと実態 (6) 出生前診断—其の功罪 (7) 痛みの人間学 (8) 摂食障害 (9) 自殺 (10) うつ病 (11) 生活習慣病 (12) 老い (13) トラウマ性障害 (14) 生と死 (1) (15) 生と死 (2)	
自学自習	事前学習	・各テーマについて予備知識を得ておくこと
	事後学習	・配布資料から、自分の興味や関心を広げてほしい
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	講義毎にプリントを配布する。参：生・老・病・死を考える 15章 実践人間学入門(庄司進一著) 朝日新聞社
成績評価の基準と方法	基準	数回の小テストを講義終了後実施して評価に加える。
	方法	講義の中からテストを実施して理解力を評価する。採点はテスト 80 点、小テスト 20 点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	心理学概論	
担当者	松田 君彦 / MATSUDA, Kimihiko	
科目情報	心理臨床<基礎> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	「こころの科学」といわれる心理学が成立した過程や、心理学がなにを目的として、どんな問題を解決しようとしているのかを、心理学のさまざまな研究領域を通して紹介する。
	到達目標	心理学のさまざまな領域について、必要な基礎知識を得ることと、人間の行動やこころについての研究方法を理解する。心理学史上における主要な研究者やその研究について概要を述べることができる。心理学のさまざまな領域について、必要な基礎知識を得ることと、人間の行動やこころについての研究方法を理解する。心理学史上における主要な研究者やその研究について概要を述べることができる。
授業計画	(1) 心理学とは何か：心を科学する、現代心理学の流れ (2) 感覚と知覚：感覚（感覚閾、刺激と感覚の関係、……） (3) 感覚と知覚：知覚（知覚の体制化、錯視、運動の知覚、……） (4) 行動のメカニズム：生理学的基礎、生得的な行動、習得された行動 (5) 記憶：記憶と情報処理、記憶のメカニズム (6) 記憶：日常生活からみた記憶、記憶の病理（PTSD、……） (7) 感情：感情の理論、感情と脳 (8) 発達：発達心理学の主要理論、発達心理学の研究法 (9) 発達：認知的発達（ピアジェの発達理論） (10) 社会性の発達：（愛着の機能と発達、対人関係の発達、道徳性の発達） (11) 社会：社会心理学における自己、社会的認知と態度 (12) 社会：対人関係と対人的影響、集団心理 (13) 個人差：パーソナリティ、知能、心理アセスメント (14) 心の障害と支援：心の支援の在り方 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・適宜、授業の初めに前回の授業内容を振り返る。
使用教材・参考文献	使用教材	吉崎一人他編著『心理学概説』ナカニシヤ出版、2010年。
	参考文献	授業中に適宜、紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	心理学の基礎的な専門用語や、著名な心理学者の研究について、概要を説明できる。
	方法	試験(70点)と授業への参加度(30点)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育学概論	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育の思想・理論・内容・方法・制度・歴史・現状など、教育学全般について概説する。また、各自が自分に引きつけて振り返り、考えやすいようにするため、随時、身近あるいは時事的な問題・話題を取り上げて論じる。
	到達目標	①教育に関する基礎知識を身に付け、教育学の領域と特徴について大まかにつかみ、視野を広げる。 ②自分自身の学習を援助する（自己教育）という客観的な視点を持ち、生活の様々な場面で実践できるようになる。
授業計画	(1) 教育とは何か —教育の本質と目的— (2) 教育の思想 —子ども観・教育観— (3) 人間の発達と学習 (4) 教育の制度と行政 (5) 学校教育 (6) 教育の内容① (7) 教育の内容② (8) 教育の方法① (9) 教育の方法② (10) 教職論 (11) 大学生の教育環境 (12) 生涯学習社会と教育 (13) 教育の現代的課題 (14) 教育改革の動向 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	レジュメと参考文献をもとに、基礎的な用語や考え方の理解を確実にしておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。プリントを配布する。
	参考文献	木村元・小玉重夫・船橋一男著『教育学をつかむ』有斐閣 2009年 篠田弘編著『資料でみる教育学』福村出版 2007年 このほか、適宜、紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	積極的にコメント欄に記入するなどして、自分で考え実践する姿勢を示し、定期試験で基礎知識の習得を確認できた場合に合格とする。
	方法	出席態度 45%、コメント 15%、テスト 40%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	生涯学習概論 I	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	学芸員・司書・社会教育主事資格科目 / 必修、「生涯開発論」と同一科目	
科目概要	授業内容	現代はあらゆる活動が知識や情報が直接的な基盤となる知識社会であるといわれている。そうした時代に生きる私たちは、学校などでの一時期の学習だけでなく、生涯にわたる学習が不可欠となっている。そうした視点から、今日に生きるための学習のあり方をともに考える。
	到達目標	現代における教育・学習の意味を理解する。 生涯にわたる教育・学習の仕組みとその意味を知る。自らの生涯学習のイメージをつかむ。
授業計画	(1) 「学び」の意味と生涯学習 (2) 生涯学習の歴史 (3) 学校と生涯学習 (4) 地方自治体と生涯学習・社会教育 (5) 生涯学習・社会教育と法 (6) 生涯学習・社会教育施設 (7) 生涯学習・社会教育の内容と方法 (8) 生涯学習・社会教育実践の諸相－NPO・ボランティア活動 (9)                "                                —女性の生活の変化と生涯学習 (10)               "                               —子育て・青少年教育と生涯学習 (11)               "                               —高齢者と生涯学習 (12)               "                               —まちづくりと生涯学習 (13)               "                               —情報化と生涯学習 (14)               "                               —グローバル化と生涯学習 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	取り上げたテーマ・内容について、授業中に課する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	丸山英樹・大田美幸『ノンフォーマル教育の可能性』新評論 2013年／田中雅文ほか『テキスト生涯学習』学文社 2008年／『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012年／『月刊社会教育』国土社
成績評価の基準と方法	基準	現代における生涯学習の意味を理解し、社会における生涯学習のあり方と自らの生涯学習の見通しをたてることができる。
	方法	授業中に課す小レポート 30点、期末試験 70点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	<b>人権論</b>	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	心理臨床＜関連＞ / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	-	
科目概要	授業内容	東洋と西洋とでは、人権概念が異なると言われることもあるが、本当であろうか。この講義においては、日本を含むアジアにおける人権問題を具体的に検討したい。
	到達目標	現代においては、国内社会における人権問題の他に国際社会における人権問題も存在することが理解できる。国内外の人権問題の理解が容易になる。
授業計画	(1) 人権に関する基礎知識 (2) 近代における人権 (3) 現代における人権 (4) 明治憲法下の臣民の権利及び義務 (5) 日本国憲法下の国民の権利及び義務 (6) ビルマ（ミャンマー）における人権問題(1) (7)                    "                      (2) (8) "                      (3) (9) 東チモールにおける人権問題(1) (10) "                      (2) (11) "                      (3) (12) 西パプアにおける人権問題(1) (13) "                      (2) (14) "                      (3) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	使用教材	中野進『アジアと自決権』信山社 2008年 4-434-12141-8
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。
	方法	テスト（80%）、レポートなど（20%）
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	心理学実験 I	
担当者	◎神菌 紀幸 / 木下 昌也 / 小林 純子 / 白井 祐浩 / 野上 真	
科目情報	心理臨床<基礎> / 必修 / 後期 / 実験 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	心理学においてこれまで蓄積されてきた心理学的理論や法則，モデル等を実験を通じて実際に体験しながら，基本的な実験，調査，観察，計量の仕方を学ぶ。
	到達目標	実験を通じて，種々の心理事象について関心を深めると共に，心理学の基礎知識を習得する。 また実際の実験遂行，データ処理の仕方，レポート（論文）の書き方など，科学研究活動に必要な初歩的技能を獲得する。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション (2) I．感覚・知覚心理学分野 (3)                 " " (4) II．社会心理学分野 (5)                 " " (6) まとめ (7) III．行動研究の基礎 (8)                 " " (9) IV．学習心理学分野 (10)                " " (11) まとめ (12) V．認知心理学分野 (13)                " " (14) まとめ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・オリエンテーションで配布する資料をよく読んでおくこと。 ・不明な用語は関連する書籍等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各分野・領域ごとにレポート課題を課す。 ・必要な事項は関連する書籍等でよく調べ補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	毎回の実験に参加し，その都度，必要な要件を満たしたレポート課題を提出すること。
	方法	最終成績は，各回を担当する教員がそれぞれ独立に評価したものの合算による。
備考	1年生の受講は認めない。1限目と2限目の両方とも受講すること。上記内容の実施順序は変更になる場合がある。再履修クラスもこれに準拠するが，子細は別途指示する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	心理学実験Ⅱ	
担当者	◎木下 昌也 / 神菌 紀幸 / 小林 純子 / 野上 真 / 松田 君彦	
科目情報	心理臨床<基礎> / 選択 / 前期 / 実験 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	心理学実験Ⅰに引き続き、心理学的理論や法則、モデル等を実験を通じて実際に体験しながら、基本的な実験、調査、観察、計量の仕方を学ぶ。
	到達目標	実験を通じて、種々の心理事象について関心を深めると共に、心理学の幅広い基礎知識を習得する。 また実際の実験遂行、データ処理の仕方、レポート（論文）の書き方など、科学研究活動に必要な技能を獲得する。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション (2) Ⅰ．知覚心理学分野 (3)                "                " (4) Ⅱ．社会心理学分野 (5)                "                " (6) まとめ (7) Ⅲ．行動研究の基礎 (8)                "                " (9) Ⅳ．認知心理学分野 (10)               "                " (11)まとめ (12)Ⅴ．学習心理学分野 (13)               "                " (14)まとめ (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・オリエンテーションで配布する資料をよく読んでおくこと。 ・不明な用語は関連する書籍等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各分野・領域ごとにレポート課題を課す。 ・必要な事項は関連する書籍等でよく調べ補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	毎回の実験に参加し、その都度、必要な要件を満たしたレポート課題を提出すること。
	方法	毎回の実験に参加し、その都度、必要な要件を満たしたレポート課題を提出すること。
備考	2年生以下の受講は認めない。1限目と2限目の両方とも受講すること。上記内容の実施順序は変更になる場合がある。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	心理検査法 I	
担当者	◎石井（利） / 飯干 / 石井（佳） / 大島 / 小林 / 白井 / 松本 / 山喜	
科目情報	心理臨床<基礎> / 必修 / 前期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	心理検査法 I では、心理検査の基礎として、質問紙法や投影法、知能検査等の中で最も頻用されている検査の特徴や実施方法、解釈について学ぶ。なお、オリエンテーションと心理アセスメント概説の講義の後、3回目以降は2つ(または3つ)の組に分かれ、並行して進めていく。組分けと各組の実習スケジュールは、第1回目のオリエンテーション時に配布する。
	到達目標	各心理検査の特徴や実施方法、解釈についての基礎的な知識を得ることができる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 心理アセスメント概説 (3) クレペリン (4) TEG-II (5) WAIS-III ① (6) WAIS-III ② (7) WAIS-III ③ (8) 主要5因子性格検査 (9) バウム・テスト (10) Y-G 性格検査 (11) MMPI ① (12) MMPI ② (13) MMSE-J (14) SCT (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・各検査法について下調べをしておくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	各心理検査用具およびマニュアルを使用し、必要に応じてレジメを配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて、各心理検査の特徴や実施方法、解釈について理解しているものを合格とする。
	方法	心理検査ごとにレポートを提出する。受講態度（30点）と各検査のレポート（70点）で評価する。授業に出席せずにレポートを提出した場合は評価の対象としない。
備考	実習の性質上、遅刻者は不利益を被ることになり、また他の受講生の迷惑になるため、遅刻は厳に慎むこと。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	心理検査法Ⅱ	
担当者	◎石井（利） / 飯干 / 石井（佳） / 大島 / 小林 / 白井 / 松本 / 山喜	
科目情報	心理臨床＜基礎＞ / 選択 / 後期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	心理検査法Ⅱは、病院臨床でよく用いられている投影法を中心に計画されている。各検査の特徴及び実施方法、解釈の基本を学ぶ。
	到達目標	各心理検査の特徴や実施方法、解釈についての基礎的な知識を得ることができる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) P-F スタディ ① (3) P-F スタディ ② (4) 風景構成法 (5) 新版 S-M 社会生活能力検査 (6) 標準言語性対連合学習検査、WCST (7) コラージュ (8) ベンダー・ゲシュタルト・テスト (9) 遠城寺式発達検査 (10) 統合型HTP法 (11) ロールシャッハ・テスト ① (12) ロールシャッハ・テスト ② (13) ロールシャッハ・テスト ③ (14) ロールシャッハ・テスト ④ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・各検査法について下調べをしておくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	各心理検査用具およびマニュアルを使用し、必要に応じてレジメを配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて、各心理検査の特徴や実施方法、解釈について理解しているものを合格とする。
	方法	心理検査ごとにレポートを提出する。受講態度（30点）と各検査のレポート（70点）で評価する。授業に出席せずにレポートを提出した場合は評価の対象としない。
備考	・受講前提科目：心理検査法Ⅰ　・実習の性質上、遅刻者は不利益を被ることになり、また他の受講生の迷惑になるため、遅刻は厳に慎むこと。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	心理学測定法	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari 鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	心理臨床<基礎> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講義では、心理測定の論理およびそこで得られるデータの意味や処理のしかたについて講義する。また、隔週で講義で習ったことについて復習しつつ、コンピュータソフト上でのデータ処理の演習もおこなう。
	到達目標	基本統計量、実験計画に関わる言葉の意味及び統計的検定の手続きについて説明できるようになる。また、コンピュータ上で統計処理ができるようになる。加えて、統計学の思考法によって心理測定で生じうる問題に対応できるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 心理測定の問題点/データの種類 (3) 復習と演習 (4) 代表値と散布度 (5) 復習と演習 (6) 相関/クロス表 (7) 復習と演習 (8) 推測統計・実験計画の基礎 (9) 復習と演習 (10) 統計的検定の実際① (11) 復習と演習 (12) 統計的検定の実際② (13) 復習と演習 (14) 要因配置と分散分析 (15) 復習と演習	
自学自習	事前学習	・前回までの学習について教科書、ノート、プリント、ムードル上の課題等で振り返っておくこと。
	事後学習	・当回の学習について教科書、ノート、プリント等で振り返ること。また、授業時間内に課題が終わらなかったものは翌週までに終わらせておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	吉田寿夫『本当にわかりやすいすぐく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房 1998年
	参考文献	授業中指示する。
成績評価の基準と方法	基準	授業中に課す課題および期末テスト・レポートにより、上記目標に到達しているかどうかを判断し、評価する。
	方法	授業中に課す課題(50%)および期末テスト・レポート(50%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	心理学研究法	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	心理臨床<基礎> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	現代の心理学においては、測定されたデータによって法則や理論を帰納することと、これら法則・理論からの予測をデータによって実証することの循環によって、生体行動を体系的に理解しようとする。この授業では、このような心理学的研究を行うための方法や原理を理解・習得することを目的とする。
	到達目標	心理学的研究の基本的な方法について学び、その理解を深めると共に、測定されたデータの解析方法について把握する。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション (2) 心理学研究の論理とそのプロセス 実証のロジック (3) 研究の種類 実験的研究と相関的研究 (4) 実証のためのプロセスと考え方 (5) 実験的研究法 独立変数の操作 (6) 剰余変数の統制 統制の原理と必要性 (7) 従属変数の測定 測定の信頼性と妥当性 (8) 得られたデータの解釈と記述 主効果と交互作用効果の考え方 (9) 分散分析法 (10) 相関的研究法とその方法論 (11) 多変量解析の基礎 回帰モデルの考え方 (12) 重回帰分析の適用法 (13) 因子分析 (14) リサーチ・リテラシー データを読み取る力 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	心理学の研究方法について関連する資料や書籍に目を通しておき、意味のわからない用語は調べておくこと。
	事後学習	参考資料等で必要な事柄についての理解を補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	高野陽太郎・岡隆 編『心理学研究法』有斐閣アルマ 2004年 ISBN 4-641-12214-8
成績評価の基準と方法	基準	種々の心理学的研究法についての知識を持ち、それらについて論述でき、データ解析方法について理解を得ていることを合格の目安とする。
	方法	筆記試験を課す。[授業への取り組み(受講態度など)40%/筆記試験 60%]
備考	「心理学測定法」を履修済みであることを前提に授業は行う。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学習心理学 I	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	古典的条件づけ及びオペラント条件づけを中心とした学習の過程について講義する。各テーマにおいて多くは動物実験の話から始めるが、最終的にはヒト(子どもも含む)の学習について見ていく。さらに学習心理学の視点から子どもの行動及び心の発達についても考察する。
	到達目標	古典的条件づけ、オペラント条件づけを中心とした学習のメカニズムを理解し、ヒトの学習として説明できる。
授業計画	(1) 学習とは (2) 心理学史の中の学習心理学 (3) 学習心理学の流れ (4) 古典的条件づけ：パブロフの実験から (5) 古典的条件づけ：嫌悪条件づけ (6) 古典的条件づけ：古典的条件づけの諸問題 (7) オペラント条件づけ：オペラント条件づけの基礎 (8) オペラント条件づけ：部分強化と強化スケジュール (9) オペラント条件づけ：強化とは (10) オペラント条件づけ：応用行動分析 (11) 学習と発達 (12) 技能の学習 (13) 社会的学習 (14) 学習理論の応用：行動療法 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・ 前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	・ 当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること ・ 何回かおきに復習用の課題を課す
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に資料を配布する。
	参考文献	J. E. メイザー 『メイザーの学習心理学』 二瓶社 1996 ISBN4-931199-43-7 佐藤方哉 『行動理論への招待』 大修館書店 1976年 ISBN4-469-21056-0
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえたテストをおこない、60点以上を合格とする。
	方法	期末テスト
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	臨床心理学 I	
担当者	石井 佳世 / ISHII, Kayo	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	「こころの援助学」である臨床心理学の基礎理論について学ぶことを目的とする。心理療法の基本的な知識や技法、精神病理的的症状や発達障害について概説する。
	到達目標	精神病理的的症状や発達障害の基本的な知識について理解し、対応のための基本的な考え方が身につけられるようになる。
授業計画	(1) 臨床心理学とは (2) 様々な心理療法（フロイトの精神分析） (3) 様々な心理療法（行動療法） (4) 様々な心理療法（論理療法・認知行動療法） (5) 様々な心理療法（クライエント中心療法） (6) 様々な心理療法（ゲシュタルト療法） (7) 様々な心理療法（家族療法） (8) 精神障害① (9) 精神障害② (10) 精神障害③ (11) 精神障害④ (12) 知的障害 (13) 発達障害① (14) 発達障害② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配付プリントやノートを読み、復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	臨床心理学の基礎知識が身につき、精神病理的諸症状等への心理的対応が理解できたものは合格とする。
	方法	受講態度・コメントカード（40%）、試験（60%）によって総合的に判断する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会心理学 I	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	社会心理学とは、社会と個人の関わりという観点から、社会の中で生起する個々人の行動について研究する学問である。本講義では社会心理学の主たる研究領域について概観し、その学問的意義について解説する。
	到達目標	社会心理学で扱われる様々な研究領域・各種研究トピックについて学び、学問的特色を理解する。さらにこれらを通じて、社会心理学の基本的知識を習得する。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション 社会心理学とは何か (2) 社会心理学の研究方法及びその研究対象 (3) 社会的行動の基礎—個人レベルで捉えた社会行動 …①内的要因 (4) // …②社会的動機、社会的促進・社会的手抜き (5) // …③他者理解、自己開示 (6) 相互作用と集団過程—小集団レベルでの相互作用過程 …①態度変容 (7) // …②対人魅力 (8) // …③攻撃行動 (9) // …④援助行動 (10) // …⑤非言語的コミュニケーション (11) 社会と個人の相互作用—マクロレベルでの社会行動 …①群衆行動 (12) // …②集団とは何か (13) // …③マスコミと世論 (14) // …④流言と情報伝達プロセス (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	社会心理学の基本的概念や用語について、関連する資料や書籍に目を通し、理解しておくこと。
	事後学習	必要な事柄は関連する資料等でよく調べ補って置くこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	社会心理学全般に渡る基礎的知識とその理解を得ていることを合格の目安とする。
	方法	講義への出席や受講態度を重視する。筆記試験もしくはレポートを課す。[授業への取り組み 50%/筆記試験(レポート) 50%]
備考	講義中、数回の研究調査・実験への参加依頼を行う可能性がある。これらを拒否することによる成績評価上の不利益はない。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育心理学 I	
担当者	松田 君彦 / MATSUDA, Kimihiko	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育とよばれる事象の中から心理学に関連した問題を取り上げる。従来から心理学の主な関連領域としては発達、学習、適応、評価などが研究されてきたが、この教育心理学 I では発達と学習を中心に講義する。
	到達目標	1. 発達という側面が教育活動にどのような形で関わってくるのかその必然性やメカニズムについて理解し、説明できるようになること。 2. 学習にはいろんな種類やメカニズムが存在することや、それらが教育活動とどのように関連してくるのかについて理解し、説明できるようになること。
授業計画	(1) 発達と教育（遺伝と環境、成熟説と学習説） (2) 乳幼児における認知の特徴 (3) ピアジェの認知発達段階説（1） (4) ピアジェの認知発達段階説（2） (5) 言語発達と教育、乳幼児期の言語発達 (6) 学童期の読書と作文 (7) 社会性と社会的スキルの発達 (8) 道徳性と向社会性の発達 (9) 記憶のプロセス (10) 記憶と効果的な学習法 (11) 個人差に応じる指導（適性処遇交互作用） (12) 個人差に応じる指導（学習到達度の個人差） (13) 個人差に応じる指導（認知スタイルと興味の個人差） (14) 学習過程による授業の分類（1） (15) 学習過程による授業の分類（2）	
自学自習	事前学習	例次回の講義に関連したキーワードやトピックに関して予備知識を与え、調べさせておく：・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	前回の授業の概略を振り返り、主要な概念の理解を再確認させる。
使用教材・参考文献	使用教材	北尾倫彦他著「コンパクト教育心理学」 北大路書房
	参考文献	その都度、適宜提示する。
成績評価の基準と方法	基準	1. 発達を考慮した教育活動の必要性が理解できていること。 2. 学習のタイプに応じた教育活動について、概略説明できるようになること。
	方法	最終筆記試験（70点）、授業への参加度（30点）。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	発達心理学 I	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	-	
科目概要	授業内容	子どもの心身の発達過程とその諸要因について講義する。
	到達目標	発達の原理及びヒトの発達の特徴について理解する。
授業計画	(1) 発達とは (2) 遺伝と環境 (3) パーソナリティの遺伝① (4) パーソナリティの遺伝② (5) 初期経験と臨界期 (6) 初期経験としての親子関係について (7) ヒトの発達の特徴 (8) 発達の様相、時期の区分 (9) 新生児のできること (10) 発達段階説 (11) 行動発達①：幼児期 (12) 行動発達②：児童期 (13) 行動発達③：青年期 (14) 年齢間比較の方法と問題点 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・ 前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	・ 当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること ・ 何回かおきに復習用の課題を課す
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に資料を配布する。
	参考文献	矢野喜夫・落合正行『発達心理学への招待』サイエンス社 1991年 岡野恒也(編)『比較発達心理学』ソフィア 1992年 中谷勝哉『行動誌入門』ナカニシヤ出版 1997年
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえたテストをおこない、60点以上を合格とする。
	方法	期末テスト
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	産業組織心理学 I	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講では、産業組織心理学の基礎理論、特にモチベーション、リーダーシップ、職場のコミュニケーションに関する理論について解説する。あわせて、組織やチームの一員として効果的に振る舞うための留意点について、体験学習を通して考察する。
	到達目標	組織の一員として円滑な人間関係を築き、業績を向上させることに関わる心理プロセス、行動の特色について理解する。このことを通じ、将来、社会人として仕事に取り組むための心構えや自信をつちかう。
授業計画	(1) 産業組織心理学の特色と歴史 (2) ワーク・モチベーション① (欲求とモチベーション) (3) ワーク・モチベーション② (報酬とモチベーション) (4) ワーク・モチベーション③ (目標設定とモチベーション) (5) ワーク・モチベーション④ (組織コミットメント) (6) リーダーシップ① (リーダー行動の特色) (7) リーダーシップ② (状況に応じたリーダー行動) (8) リーダーシップ③ (リーダーに対する部下の働きかけ) (9) リーダーシップ・トレーニング (10) 職場の勢力関係 (影響力の行使) (11) 職場のコミュニケーション① (報告・連絡・相談) (12) 職場のコミュニケーション② (会議の技術) (13) チームワーク (職場における協働) (14) 葛藤解決トレーニング (15) ケースワーク	
自学自習	事前学習	「参考文献」を前もって読んでおくことで理解の助けになります。
	事後学習	適宜「おすすめの本」を紹介しますので読んでください。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	山口裕幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN9784623048717
成績評価の基準と方法	基準	産業組織心理学の基礎理論、特にモチベーション、リーダーシップ、職場のコミュニケーションに関する理論について理解したものを合格とする。
	方法	本講で解説した産業組織心理学の基礎理論の理解を評価する。(出席態度 45%, 試験 55%)
備考	グループワークが3回あります。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学習心理学Ⅱ	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	前半は応用行動分析について、後半は言語行動をテーマに取り上げ学習心理学の視点から講義する。いずれの話題にも子ども（障害児を含む）の学習過程の内容を含む。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の生物学的心理学的基盤およびその学習、発達過程について理解する</li> <li>・応用行動分析の基礎を理解する</li> </ul>
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 行動分析について (3) 応用行動分析① (4) 応用行動分析② (5) 応用行動分析③ (6) 応用行動分析④ (7) 応用行動分析⑤ (8) 応用行動分析⑥ (9) 言語行動① (10)言語行動② (11)言語行動③ (12)言語行動④ (13)言語行動⑤ (14)言語行動⑥ (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	・当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に資料を配布する。
	参考文献	P. A. アルバート&A. C. トルートマン『初めての応用行動分析』二瓶社 1992年 ISBN 4-931199-15-1 日本行動分析学会編『ことばと行動』ブレーン出版 2001年 ISBN 4-89242-675-X 佐藤方哉『行動理論への招待』大修館書店 1976年 ISBN4-469-21056-0
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえたテストをおこない、60点以上を合格とする。
	方法	期末テスト
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	行動生理学	
担当者	飯干 紀代子 / IIBOSHI, Kiyoko	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成22年度以前入学生「行動生理学Ⅰ」	
科目概要	授業内容	大脳の働きについて学び、その機能局在を理解する。脳の損傷が起こった場合の高次脳機能障害と、それらに伴う心の問題を学び、評価や支援の在り方を考える。
	到達目標	大脳の大きな解剖・生理を学ぶ。また、大脳の機能局在（記憶、注意、言語、思考、情動など）を理解する。大脳の働きを測定する簡単な神経心理検査について知り、一部実施する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 脳の仕組み① (3) 脳の仕組み② (4) 脳の機能局在①注意 (5) 脳の機能局在②記憶 (6) 脳の機能局在③言語 (7) 脳の機能局在④思考 (8) 脳の機能局在⑤情動 (9) 高次脳機能障害とは (10) 高次脳機能障害の支援とは (11) 神経心理検査① (12) 神経心理検査② (13) 神経心理検査③ (14) 神経心理検査④ (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・レポートを数回課す
使用教材・参考文献	使用教材	なし
	参考文献	①山田規敏子：高次脳機能障害者の世界～私の思うリハビリや暮らしのこと。 2013、協同医書出版 ②橋本圭司：高次脳機能障害のリハビリがわかる本。 2012、講談社
成績評価の基準と方法	基準	大脳の基本的な働きについての理解が達成されたものは合格とする。
	方法	レポート50%、検査実施と集計30%、受講態度20%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	認知心理学	
担当者	横山 春彦 / YOKOYAMA, Haruhiko	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	認知とはいかなる活動であり、なぜそうした機能が進化したか。心理学の研究対象であり、ヒトや動物の本質である行動という観点から、認知という機能について考察する。
	到達目標	授業内容がつかみやすいよう、毎回1つのキーワードをめぐって講義を行う。そのキーワードの意味する内容および、それが示唆するものについて適切な理解を得ることが目標である。
授業計画	(1) 「感覚」の役割について、ほか。 (2) 「感覚」「知覚」「認知」の概念について、ほか。 (3) 「可視光線」「光受容器」「視覚野」について、ほか。 (4) 「視野」「盲点」「網膜像」、ほか。 (5) 「中心視」「周辺視」「眼球運動」、ほか。 (6) 「単眼視」「両眼視」「立体視」、ほか。 (7) 「空間化」「視覚世界」、ほか。 (8) 「色相」「明度」「彩度」、ほか。 (9) 「ベツォルト・ブリュッケ現象」「進出色」「後退色」、ほか。 (10) 「ゲンシュタルト要因」、ほか。 (11) 「仮現運動」「誘導運動」「自動運動」、ほか。 (12) 「形の恒常性」「色の恒常性」「明るさの恒常性」、ほか。 (13) 「大きさの恒常性」「位置の恒常性」「方向の恒常性」、ほか。 (14) 「視覚性定位障害」「視覚失認」「立体視障害」、ほか。 (15) 「半側空間無視」「反復視」「相貌失認」、ほか。	
自学自習	事前学習	・シラバスに示されたキーワードにつき、事前にその概要を調べ、理解しておくことが望ましい。
	事後学習	・授業で提示されたキーワードにつき、その具体例や関連事項等について調べておくことが望ましい。
使用教材・参考文献	使用教材	授業はパワーポイントで進める。 テキストは使用せず、必要に応じて資料の配布を行う。
	参考文献	参考図書などについても適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえ、期末試験において、授業の基本となる概念（キーワード）を適切に理解し、十分に説明できると判定できた者は合格、不十分と判定された者は不合格とする。
	方法	授業態度等（30点）及び期末試験の成績（70点）により総合的に評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	家族心理学	
担当者	石井 佳世 / ISHII, Kayo	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	家族ライフサイクルの各段階における発達課題や、家族の抱える心理的問題と家族への心理臨床的援助について講義する。
	到達目標	家族ライフサイクルと家族の発達課題を学び、各段階で生じやすい心理的問題とその援助法を理解する。
授業計画	(1) 家族心理学とは何か (2) 家族の健康とは (3) 家族のライフサイクルと発達課題① (4) 家族のライフサイクルと発達課題② (5) 夫婦関係 (6) 親子関係—養育の場としての家族 (7) 児童虐待と家族 (8) 子どもの不登校と家族 (9) 子どもの家庭内暴力 (10) 子どもの非行と家族 (11) 夫婦の問題 (12) 家族理解に役立つ臨床理論 (13) 家族への心理臨床的援助 (14) 家族への心理臨床的アプローチの実際 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配付プリントやノートを読み、復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	家族ライフサイクルと各段階における発達課題、および心理的問題について理解し、その援助法について考えることができたものは合格とする。
	方法	受講態度・コメントカード（40%）、試験（60%）によって総合的に判断する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学習心理学演習	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	「別冊日経サイエンス」の心理学、神経科学にかかわる特集号の論文について毎回 1～2 編ずつ発表してもらう。
	到達目標	心理学、神経科学の最先端の研究に興味を持てるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 発表と解説、討論 (3) 発表と解説、討論 (4) 発表と解説、討論 (5) 発表と解説、討論 (6) 発表と解説、討論 (7) 発表と解説、討論 (8) 発表と解説、討論 (9) 発表と解説、討論 (10) 発表と解説、討論 (11) 発表と解説、討論 (12) 発表と解説、討論 (13) 発表と解説、討論 (14) 発表と解説、討論 (15) 発表と解説、討論	
自学自習	事前学習	・自分の発表の回までに論文を読み、発表の準備をしておくこと
	事後学習	・他の人の発表について自分の発表と関連づけられないか検討すること
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。
	参考文献	必要に応じ、授業中紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	上記目標に到達できているかどうか。授業の出席数が少ない者は上記目標に到達できていないと見なして不合格とする。
	方法	授業における演習内容による。授業中の発表（35%）と毎回の発表に対するコメント（65%）。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学校臨床論	
担当者	◎神菌 紀幸 / 白井 祐浩 / 松田 君彦	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講義では、今日の学校教育における諸問題について考える上での基本的な理論や考え方を学び、様々な視点を持つ心理学的な知見をもとに、その克服の方途を考えていく。また、生徒指導の理論及び方法について学ぶ。
	到達目標	現代の学校教育における様々な課題を教育臨床心理学的立場から考えることが出来ること。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション (2) I. 組織としての学校と学校教育 ① (3)         "   ② (4)         "   ③ (5)         "   ④ (6) II. 現代の学校における教育臨床的諸課題 ① (7)         "   ② (8)         "   ③ (9)         "   ④ (10) III. 学校のあり方と学校臨床の展望 ① (11)        "   ② (12)        "   ③ (13)        "   ④ (14)        "   ⑤ (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義中に理解が不十分であった事柄については、関連する図書や資料等にあたり、補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	「学習指導要領」。その他必要に応じて、授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	現代の学校教育における様々な課題を教育臨床心理学的立場から考えることが出来ることを合格の目安とする。
	方法	本講義は3名の教員によるオムニバス形式で行われる。最終評価は、各教員が受講態度50%、各個課題50%で評価した得点を合算したものによる。
備考	授業内容の実施順序は変更になる場合がある。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育哲学	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本科目は、教育という営みの本質の意味を問い様々な教育思想（教育観）を概観しながら、「教育とは何か」という本質的問いについて考えていきます。同時に、「教育とは何か」という哲学的解釈の視座に基づき、現代の学校教育における諸課題について考察していきます。
	到達目標	(1) 現代教育に影響を与えてきた諸学説（教育思想の類型）について理解する。 (2) 教育思想（教育観）の解釈について理解を深める。 (3) 現代教育に関わる諸問題について、哲学的解釈の視座から考えることができる。
授業計画	(1) I. 教育哲学の本質～教育哲学と何か～ (2)            "            ①教育哲学の成立 (3)            "            ②教育の哲学的解釈 (4)            "            ③教育の哲学的特質 (5) II. 教育思想の諸類型 1) 「教」（伝達）を重視する教育観①クリーク (6)            "            "            ②デュルケーム (7)            "            2) 「育」（助成）を重視する教育観③ルソー (8)            "            "            ④ペスタロッチ (9)            "            "            ⑤フレーベル (10)           "            "            ⑥モンテッソーリ (11)           "            "            ⑦デューイ (12)           "            "            ⑧ボルノー (13) III. 教育哲学の展開～臨床教育学へのアプローチ～ ①教育的価値論への追求 (14)           "            ②教育的認識論への追求 (15)           "            ③教育的関係論への追求	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配布資料や提示した参考文献に目を通し授業への理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	・教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	・ 関川悦雄 他著 『教育思想のルーツを求めて』 啓明出版 2001年 ISBN:9784874480281 ・ 沼野和男著 『教育の原理』 学文社 2002年 I SBN:0784762002335 ・ 文部科学省 編著『中学校学習指導要領』 東山書房 2008年 ISBN:9784827814613 ・ 文部科学省 編著『高等学校学習指導要領』 東山書房 2009年 ISBN:9784827814781 ・ 文部科学省 編著『生徒指導提要』 教育図書 2010年 ISBN:978487730
成績評価の基準と方法	基準	・教育哲学に関わる基礎的知識を習得し、これら教育の哲学的知見に基づいて、現代の学校教育に対し自分の考えを述べることを合格の基準とします。
	方法	・最終試験（60%）、小レポート（20%）、授業態度（20%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	教育史	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶ。
	到達目標	西洋の近代教育思想史を学ぶことで、今日の教育に関する基本的な考え方の源流について理解できるようになる。 近世及び近現代の日本の教育史を学ぶことで、日本の教育の形成過程を理解するとともに、今日の教育について歴史的な視点をもって考えることができるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 洋の近代教育思想 (1) —ルソー, コンドルセ— (3) 西洋の近代教育思想 (2) —ペスタロッチ, ヘルバルト— (4) 西洋の近代教育思想 (3) —フレーベル, オーエン— (5) 西洋の近代教育思想 (4) —デューイ, モンテッソーリ— (6) 近世以前の教育史 (7) 明治時代の教育 (1) —近代教育の開始— (8) 明治時代の教育 (2) —近代教育制度の確立— (9) 大正時代の教育と大正新教育運動 (10) 昭和戦前期の教育と戦時下の教育 (11) 戦後の教育 (1) —戦後教育改革— (12) 戦後の教育 (2) —1950年代以降の教育— (13) 授業のまとめ 1 (14) 授業のまとめ 2 (15) 授業のまとめ 3	
自学自習	事前学習	参考文献を読んでおく。
	事後学習	既受講内容について復習する。
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に教材プリントを配布する。
	参考文献	『学習指導要領』を使用している。 勝山吉章編著『西洋の教育の歴史を知る—子どもと教師と学校を見つめて』あいり出版 2011年 ISBN9784901903479 ほか
成績評価の基準と方法	基準	今日の教育に関する基本的な考え方の源流や、日本の教育の形成過程について理解するとともに、今日の教育について歴史的な視点をもって考えることができる
	方法	授業参加度 55点 定期試験 45点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育メディア論	
担当者	鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	教職に関する科目（教育課程および指導法に関する科目） ・教育の方法および技術（情報機器及び教材の活用を含む） 教育では様々なメディアが活用されている。本授業では、紙メディアによる独学を支援する教材の作成を通じて、学習を支援するための設計や方略を学ぶ。これらは、コンピュータ等をはじめとしたメディアを教育で活用するための基礎となる。
	到達目標	インストラクショナルデザインの基礎に従って、独学を支援するための教材を作成できるようになることを目指す。そのためには、明確な目標の設定やテスト、教授方略を用いた教材の設計ができなければならない。また、作成教材に形成的評価を実施し、よりよい教材にするために改善策を提案できるようになる。
授業計画	(1) 【B1】 オリエンテーション、独学教材について (2) 教材のアイデアの具体化 (3) 教材作成のシステムの手順 (4) 前提条件や目標の明確化 (5) テストの作成 (6) 教材企画書の作成 [課題 1] (7) 【B2】 相互評価・改訂版の作成 (8) 教材の構造分析 (9) 学習支援方法の決定 (10)教材の作成 (11)相互評価・改訂 [課題 2] (12) 【B3】 形成的評価 (13)教材の改善 (14)教材作成報告書 [課題 3] (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用教材を必要に応じて読む。</li> <li>・ 意味のわからない用語について調べる。</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。</li> <li>・ 小テストや使用教材・参考文献を用いて復習する。</li> </ul>
使用教材・参考文献	使用教材	鈴木克明『教材設計マニュアルー独学を支援するために』北大路書房，2002年，ISBN9784762822445 [¥2,200+税]
	参考文献	R. M. ガニエ・W. W. ウェイジャー・K. C. ゴラス・J. M. ケラー（著），鈴木克明・岩崎信（監訳）『インストラクショナルデザインの原理』 北大路書房，2007年，ISBN9784762825736
成績評価の基準と方法	基準	すべての小テストと課題の合格を単位取得の条件とする。
	方法	小テスト・フォーラムへの投稿（20%）、課題1（20%）、課題2（30%）、課題3（30%）の累積で評価する。
備考	教育実習を希望する者は、事前に本科目の履修が必要。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育工学	
担当者	鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	教職に関する科目（教育課程および指導法に関する科目） ・教育の方法および技術（情報機器及び教材の活用を含む） 授業を行うために必要な教育の方法やメディアの活用、授業の構成方法、評価、魅力ある授業などについて教育工学の視点から扱う。
	到達目標	教育工学（インストラクショナルデザイン）の考え方や手法を学び、授業をまとめ、デザインすることができるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション、アイスブレイク (2) インストラクショナルデザインとは何か (3) 学習目標を明確にする (4) 学習者を分析する (5) 学力とは何か ―学習成果の5分類 (6) コピペレポートをどう防ぐか (7) どう教えるのか ―9教授事象 (8) 学習指導案とは何か (9) 学習指導と評価 (10)魅力ある授業をつくる(1) ―ARCSモデル (11)魅力ある授業をつくる(2) (12)メディアを活用した教育(1) ―メディア適正・オンライン教育 (13)ICTを活用した教育(2) ―電子黒板 (14)学習指導案を分析する (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用教材を必要に応じて読む。 ・意味のわからない用語について調べる。
	事後学習	・小テストや使用教材・参考文献を用いて復習する。 ・授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。 ・他の学習者のフォーラムへの投稿に返信する。
使用教材・参考文献	使用教材	稲垣忠・鈴木克明『授業設計マニュアル―教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房, 2011年, ISBN9784762827501 [¥2,200+税]
	参考文献	鈴木克明『教材設計マニュアル―独学を支援するために』北大路書房, 2002年, ISBN9784762822445 ほか
成績評価の基準と方法	基準	すべての小テストと課題の合格を単位取得の条件とする。
	方法	小テスト・小課題（フォーラムへの投稿を含む）(60%)、課題（40%）の累積で評価する。欠席は減点する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育心理学Ⅱ	
担当者	白井 祐浩 / SHIRAI, Masahiro	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育心理学における各領域についての基礎的な知識及び進路指導に関する知識を学ぶ。また、その知識を教育現場にどのように応用していくかについても理解する。
	到達目標	教育心理学における基礎的な知識及び進路指導に関する知識について学び、その知識を教育現場で応用できる形で身につける。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 学級の理解と指導 1 (3) 学級の理解と指導 2 (4) 学習の動機づけ 1 (5) 学習の動機づけ 2 (6) 性格の形成 1 (7) 性格の形成 2 (8) 不適応時の理解と指導 1 (9) 不適応時の理解と指導 2 (10) 心理検査と心理療法 1 (11) 心理検査と心理療法 2 (12) 教育評価の考え方と実際 1 (13) 教育評価の考え方と実際 2 (14) 進路指導の理論と方法 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	教科書の各テーマについて事前に読んでおくこと。
	事後学習	教科書やプリントを読み直し、内容を確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	精選 コンパクト教育心理学 教師になる人のために
	参考文献	学習指導要領。その他の文献は講義中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	教育心理学の各テーマについて理解をするとともに、自分なりの考えを述べることができるものは合格とする。
	方法	授業態度 30 点、試験 70 点によって評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学校臨床論演習	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成22年度以前入学生「教育方法論演習」	
科目概要	授業内容	本科目は、適応支援の指導法として一役を担う音楽療法の手法を用いた教育臨床の方法について考えていきます。また、特別なニーズある子どものコミュニケーション方法について、音楽療法の手法を用いた実践的展開を通して検討していきます。
	到達目標	(1) 教育臨床の一試論となる音楽療法の意義について理解する。 (2) 音楽療法の実践的展開を通して、適応支援の指導法について理解を深める。 (3) 特別なニーズのある子どものコミュニケーション方法について、音楽療法の視点から考察することができる。
授業計画	(1) 適応支援の指導法としての音楽療法の意義・目的 (2) 音楽療法の概念と定義 (3) 音楽療法の作用 (4) 音楽療法の原理 (5) 音楽療法のアセスメント（評価） (6) 適応支援における音楽療法の活用法① (7)        "                音楽療法の活用法② (8)        "                音楽療法の活用法③ (9)        "                音楽療法の活用法④ (10) 適応支援における音楽療法の実践的展開① (11)       "                音楽療法の実践的展開② (12)       "                音楽療法の実践的展開③ (13)       "                音楽療法の実践的展開④ (14)       "                音楽療法の実践的展開⑤ (15) 適応支援における音楽療法の展望と課題	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・自らの経験と講義内容を踏まえ心を育む支援法となる音楽療法について省察し理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	・教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	村井靖児著 『音楽療法の基礎』 音楽之友社 1995年 ISBN:4276122880 中島恵子・山下恵子著 『Co-Musictherapy ～音と人をつなぐ～』 春秋社 2002年 ISBN:4393934679
成績評価の基準と方法	基準	・適応支援の指導法となる音楽療法について理解し、音楽療法の実践的展開を通して、特別なニーズのある子どもの支援の在り方について考察できることを合格の基準とします。
	方法	・最終レポート(40%)、小レポート(20%)、演習発表(40%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育心理学演習	
担当者	白井 祐浩 / SHIRAI, Masahiro	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	グループごとに日本教育心理学研究の論文を購読する。資料作成、発表、ディスカッションを通じて、教育心理学に対する理解を深める。
	到達目標	教育心理学に対する理解を深め、説明できる。また、教育心理学研究の現状や課題、研究法について知る。
授業計画	(1) オリエンテーション・グループ分け (2) 教育心理学研究の読み方・資料のまとめ方 (3) グループごとのテーマ設定 (4) グループによる発表、ディスカッション (5) グループによる発表、ディスカッション (6) グループによる発表、ディスカッション (7) グループによる発表、ディスカッション (8) グループによる発表、ディスカッション (9) グループによる発表、ディスカッション (10) グループによる発表、ディスカッション (11) グループによる発表、ディスカッション (12) グループによる発表、ディスカッション (13) グループによる発表、ディスカッション (14) グループによる発表、ディスカッション (15) まとめ	
自学自習	事前学習	教育心理学研究を読み、レジュメ・パワーポイントにまとめること。
	事後学習	発表内容について資料を読み、振り返ること。
使用教材・参考文献	使用教材	特になし。
	参考文献	講義内で紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	教育心理学研究における現状や課題など理解し、まとめ、他者に説明できたものは合格とする。
	方法	ディスカッションへの参加等授業への参加態度（40%）、発表内容（60%）に基づき、総合的に評価する。
備考	受講者人数によって内容を調整する可能性がある。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育臨床実習	
担当者	白井 祐浩 / 鈴木 雄清 / 野浪 俊子 / ◎松田 君彦	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義・実習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	発達障害のある子どもの特徴、教育場面における集団編成や指導形態の在り方とその方法について学ぶ。発達障害児や家族への支援やその補助方法について、デイキャンプにおける野外活動等の企画立案や実習を通じて体験する。
	到達目標	・発達障害のある子どもの特徴や教育方法の在り方について説明できるようになる。 ・発達障害のある子どもに対する心理教育的支援指導の補助ができるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 【B1】 発達障害のある子どもの特徴と教育（講義） (3) 発達障害のある子どもへの集団編成・指導形態の在り方と方法（講義・調査） (4) 発達障害のある子どもへの集団編成・指導形態の在り方と方法（発表） (5) 中間発表会 (6) 【B2】 デイキャンプの企画立案 (7) デイキャンプの企画書案の作成 (8) デイキャンプ企画書案の妥当性の検証（専門家アドバイス） (9) デイキャンプ企画書の完成 (10) 【B3】 本実習の準備(1) (11) 本実習の準備(2) (12) 【B4】 [本実習] 本実習の振り返り (13) 本実習についての専門家レビュー (14) 実習器具の整理・引継資料の作成 (15) 実習全体の振り返りと総まとめ	
自学自習	事前学習	・発達障害のある子どもの特徴や教育に関する情報を収集し、まとめる。
	事後学習	・デイキャンプを企画立案し、実施に必要な問題や準備に取り組む。 ・実習後の振り返りをレポートにまとめる。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。必要な資料は授業中に配布する。
	参考文献	針塚進(監修)・遠矢浩一(著)『軽度発達障害児のためのグループセラピー』ナカニシヤ出版, 2006年, ISBN9784779500428
成績評価の基準と方法	基準	原則として、事前学習の実施、活動計画と実習への参画、省察レポートの提出を単位取得の条件とする。
	方法	事前調査と発表(20%)、活動の企画と実習への参画(60%)、省察レポート(20%)の累積で評価する。欠席は減点する。
備考	・休日を利用して、学外での野外活動を含む実習を実施する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	医学一般	
担当者	野添 新一 / NOZOE, Shin'ichi	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	医学・福祉領域の仕事に従事する予定の者、あるいは自分の健康増進・維持に努めたい者にとって必要な基本的医学知識を習得できるような再学習を目指す。文明化・情報化・高齢化などによって変化した疾患についての理解を深め基礎知識を学習できることを目的とする。福祉、ハビリテーションなど新しい分野についての知識習得を目指す。
	到達目標	人体の構造・機能、成長・発達、精神・身体の変化について再学習する。身体機能と身体構造についてその働きを理解する、ストレスの精神・身体に及ぼす影響について理解を深める。国際生活機能分類、健康観についての知識を得る。現代社会特有の疾病の予防、生活習慣との関連について理解を深める。高齢化に伴って増加する疾患、発達障害についての最近の知見について理解する。
授業計画	(1) 人体の構造・機能、各期間と機能 (2) 成長発達と老化 (3) 精神と身体の変化 (4) 身体機能と身体構造の概要 (1) (5) 身体機能と身体構造の概要 (2) (6) ストレスと健康・疾患 (7) 国際生活機能分類 (ICF) の基礎的考え方と概要 (8) 現代社会と疾病 (9) 癌 (10) 生活習慣病 (11) 高齢者と疾患 (12) 感染症 (13) 精神神経疾患 (14) 発達障害 (15) リハビリテーション	
自学自習	事前学習	・教科書を事前予習しておくことが望ましい。
	事後学習	・レポートを数回実施する
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	医学一般 ヘルス出版(2200円)
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえ、学習態度、出席日数、テストの結果を総合して決定する。
	方法	試験 (80%)、受講態度 (20%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	医療心理臨床学	
担当者	大島 英世 / OHSHIMA, Eisei	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	医療領域における臨床心理士の役割について学びます。また、心理療法の技法である臨床動作法について学び、実際に臨床動作法の実技を行う体験を通して、心理臨床における基本的な態度を身に着け、心理療法を体験します。
	到達目標	1. 医療領域における心理療法や臨床心理士の役割を理解することができる 2. 臨床動作法の理論や援助、心理的な効果について理解することができる
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 心理臨床の領域 (3) 心理臨床と臨床心理士 (4) 医療における心理臨床活動 (5) 子どもの心理臨床 (6) 親の心理臨床 (7) 臨床動作法を学ぶ 姿勢を見る 1 (8) 臨床動作法を学ぶ 姿勢を見る 2 (9) 臨床動作法の実際 肩上げ課題 1 (10) 臨床動作法の実際 肩上げ課題 2 (11) 臨床動作法の実際 前屈げ課題 1 (12) 臨床動作法の実際 前屈げ課題 2 (13) 臨床動作法の実際 立位課題 1 (14) 臨床動作法の実際 立位課題 1 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・日頃からからだの調子について関心をもっておくこと ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと
	事後学習	・授業の復習、課題学習をすること
使用教材・参考文献	使用教材	授業中にプリントを配布、資料提示します
	参考文献	目で見える動作法 初級編 金剛出版 2013年 鶴光代著『臨床動作法への招待』金剛出版 2007年 成瀬悟策著 ブルーバックス 『姿勢のふしぎ』講談社 1998年 その他、適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	医療領域における臨床心理士の役割や心理臨床における基本的態度、臨床動作法の立場における理論や援助について理解した者を合格とする。
	方法	受講態度：40%、試験：60%
備考	定員 40 名。からだを動かします。軽い運動ができるような服装で受講することが望ましい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	精神保健	
担当者	大島 英世 / OHSHIMA, Eisei	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	こころの健康を中心として、生涯発達の視点からライフサイクルにおける精神保健について学びます。特に、子どものこころの健康や発達について学びます。
	到達目標	1. 精神保健の意義を理解することができる 2. 精神保健における子どものこころの健康の問題について理解することができる
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 精神保健とは (3) 成長・発達と精神保健 (4) 子どもの生活環境と精神保健 (5) 乳幼児の精神保健 (6) 幼児期の精神保健 (7) 児童期の精神保健 (8) 青年期以降の精神保健 (9) 成人期・老年期の精神保健 (10)障がいのある子どもの精神保健 (11)子どもの問題行動と対応について (12)児童虐待について (13)子どもと家族を支える (14)親の精神保健を支える (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材」を購入し、前もって読んでおくこと ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと
	事後学習	・使用教材の復習をすること ・授業ごとに小レポートを課す
使用教材・参考文献	使用教材	宮本信也・小野里美帆編著 『シードブック 保育にいかす精神保健』
	参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	ライフサイクルにおける精神保健とこころの健康について理解した者を合格とする。
	方法	小レポート・受講態度：30%、試験 70%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	精神医学	
担当者	植村 健吾 / UEMURA, Kengo	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講では精神医学の臨床を学ぶとともに、それをもとにさまざまな精神障害への対応を論考する。
	到達目標	精神保健福祉士、臨床心理士に必要な精神医学の知識を教授することを主眼とするが、広く一般教養としてメンタルヘルスの理解を深める。
授業計画	(1) 精神医学の概念 (2) 精神医学の症状 (3) 統合失調症Ⅰ (4) 統合失調症Ⅱと妄想性障害 (5) 気分障害 (6) 神経症性障害・ストレス関連障害および身体表現性障害 (7) 症状性および器質性精神障害 (8) 認知症 (9) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (10) 精神依存物質およびてんかん (11) 人格および行動の障害 (12) 精神遅滞および心理発達の障害 (13) 緩和ケア (14) 精神保健福祉法 (15) 司法精神医学	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	関連する領域を図書館で調べる。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントの配布、パワーポイントの使用
	参考文献	現代臨床精神医学 金原出版
成績評価の基準と方法	基準	メンタルヘルスの問題を抱えた人に対する基本的な知識と接し方を理解できたら合格とします。
	方法	受講態度 30%、試験結果 70%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	精神保健福祉援助技術総論	
担当者	藤原 奈美 / FUJIHARA, Nami	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	精神障害者の障害特性について学び、生活支援のための基本的視点、必要とされる技術を学び理解を深め、当事者の経験からも学ぶ。また、精神保健福祉士が行うソーシャルワークの目的や価値について基本的な視点を学習する。講義形式を基本としながら、演習・ビデオ学習などを取り入れる。
	到達目標	精神障害者の障害特性について学び、生活支援のための基本的視点、必要とされる技術を学び理解を深め、当事者の経験からも学ぶ。また、精神保健福祉士が行うソーシャルワークの目的や価値について基本的な視点を学習する。講義形式を基本としながら、演習・ビデオ学習などを取り入れる。
授業計画	(1) オリエンテーション（精神保健福祉とは何か） (2) 精神障害（者）の理解①（統合失調症） (3) 精神障害（者）の理解②（うつ・依存症、その他） (4) わが国の精神保健福祉の変遷① (5) わが国の精神保健福祉の変遷② (6) 専門的援助技術の体系 (7) 精神保健福祉活動の目的と価値・倫理 (8) 精神保健福祉活動の方法と過程 (9) 精神保健福祉援助技術の実際① (10) 精神保健福祉援助技術の実際② (11) 精神保健福祉援助技術の視点① (12) 精神保健福祉援助技術の視点② (13) 精神障害者の地域生活支援① (14) 精神障害者の地域生活支援②（当事者に学ぶ） (15) 精神保健福祉援助技術総論まとめ	
自学自習	事前学習	「参考文献」を前もって読んでおくことが望ましい。意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	毎回の授業内容について考察し、その意義を明確にし、要点を再確認しておく。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	新版精神保健福祉士養成セミナー 第4巻精神保健福祉の理論と相談援助の展開 へるす出版 ISBN978-4-89269-834-7 ケースワークの原則 誠信書房 ISBN4-414-60404-4 ストレングスモデル（第2版）金剛出版 ISBN978-4-7724-1058-8
成績評価の基準と方法	基準	精神障害者の障害特性や福祉援助における対人サービスの視点を理解できているものは合格とする。ただし、出席日数3分の2に満たない者は不合格とする。
	方法	出席日数 20% 受講態度 15%（講義ごとに提出を求めるアクションペーパーの内容含む） レポート内容 65%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	人格心理学	
担当者	石井 利文 / ISHII, Toshifumi	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	広く社会一般において性格や人格という用語が頻用されているが、そもそも性格や人格とはいったい何なのであろうか。その人の性格のために他者や社会が悩むことがあり、また自分の性格のためにその人自身が悩む場合もある。本講義ではこのような諸相を有する性格の定義や問題行動との関係等に関して学ぶ。なお、人格心理学やパーソナリティ心理学、性格心理学等において扱われる内容はほぼ同じものである。
	到達目標	性格や人格に関する基礎的な知識が得られる。
授業計画	(1) 性格の定義 (2) 性格の諸理論 ① (3) 性格の諸理論 ② (4) 性格理解の方法 (5) 性格の類型論 ① (6) 性格の類型論 ② (7) 性格の発達 (8) 家族関係と性格 (9) 人間関係と性格 (10) コミュニケーションに現れる性格 (11) 適性とは何か (12) 問題行動と性格 (13) 性格の正常・異常 ① (14) 性格の正常・異常 ② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊『性格心理学への招待[改訂版]—自分を知り他者を理解するために—新心理学ライブラリ=9』サイエンス社 2003年 ISBN 978-4-7819-1044-4
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて、性格や人格に関する基礎的な知識を得たものを合格とする。
	方法	受講態度（30点）と期末レポート（70点）で評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	臨床心理学Ⅱ	
担当者	松本 宏明 / MATSUMOTO, Hiroaki	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	臨床心理学の考え方からみた不登校や引きこもり、児童虐待、依存などの問題への理解や対応について説明する。また、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論および方法についても説明する。
	到達目標	臨床心理学の基礎理論について学ぶことで、問題行動が生じる基本的メカニズムを理解し、対応のための基本的な考え方が身につけられるようになる。
授業計画	(1) 臨床心理学の実践 (2) 心理アセスメントの実際(1) (3) 心理アセスメントの実際(2) (4) 教育相談の理論と方法(1) (5) 教育相談の理論と方法(2) (6) 不登校(1) (7) 不登校(2) (8) 引きこもり (9) 児童虐待 (10)自殺 (11)依存症 (12)いじめ (13)家族への関わり (14)資源の活用 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義後半に小レポートを課す。 ・講義の内容を自分なりにまとめる
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を適宜用いる
	参考文献	下山晴彦編著「よくわかる臨床心理学（改訂新版）」 ミネルヴァ書房 2009年 ISBN: 4623054357
成績評価の基準と方法	基準	臨床心理学の基礎知識が身につく、問題行動への心理的対応が理解できたものは合格とする。
	方法	評価の方法は試験 60%、小レポート 40%で行う。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	医療心理臨床学演習	
担当者	大島 英世 / OHSHIMA, Eisei	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	グループごとにリハビリテーション心理学研究、心理臨床学研究の論文をまとめ、発表する。ディスカッションを通して、臨床に基づく研究内容や方法について理解する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療を中心とした臨床における現状や課題について理解することができる</li> <li>・臨床に基づく研究の内容や方法について知る</li> </ul>
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 論文の読み方・グループ分け (3) 論文のまとめ方・テーマ選択 (4) グループによる発表とディスカッション (5) グループによる発表とディスカッション (6) グループによる発表とディスカッション (7) グループによる発表とディスカッション (8) グループによる発表とディスカッション (9) グループによる発表とディスカッション (10) グループによる発表とディスカッション (11) グループによる発表とディスカッション (12) グループによる発表とディスカッション (13) グループによる発表とディスカッション (14) グループによる発表とディスカッション (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	リハビリテーション心理学研究、心理臨床学研究を読み、レジュメにまとめること。
	事後学習	レジュメと質疑の内容について復習をすること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。
	参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	グループのメンバーと協力して資料作成、発表ができること。臨床に基づく研究内容や方法について理解できた者を合格とする。
	方法	ディスカッションへの参加など、授業への参加態度・小レポート(40%)、発表内容(60%)に基づき、総合的に評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	臨床心理学演習	
担当者	松本 宏明 / MATSUMOTO, Hiroaki	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	・臨床心理学の研究法や論文検索の方法について教員から説明する。 ・臨床心理学に関する論文を1~2人で読み、内容についてまとめる。 ・まとめた論文について発表し、グループディスカッションを行う。
	到達目標	・論文の検索の仕方を理解し、自らの関心に沿った文献が見つけれられるようになる。 ・論文をまとめる経験を通じて、論文の構造や内容が大まかに理解できるようになる。 ・他の受講生がまとめた論文を通じて、臨床心理学の研究対象や内容の理解の幅を広げる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 文献検索の仕方 (1) (3) 文献検索の仕方 (2) (4) 論文の読み方 (1) (5) 論文の読み方 (2) (6) 論文紹介とディスカッション (1) (7) 論文紹介とディスカッション (2) (8) 論文紹介とディスカッション (3) (9) 論文紹介とディスカッション (4) (10)論文紹介とディスカッション (5) (11)論文紹介とディスカッション (6) (12)論文紹介とディスカッション (7) (13)論文紹介とディスカッション (8) (14)論文紹介とディスカッション (9) (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学習した論文の論旨をまとめておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	松井豊著 改訂新版 心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために 河出書房 2010年 ISBN:4309245226
成績評価の基準と方法	基準	臨床心理学の研究方法や論文の構成を理解して発表できた者を合格とし、そうでない者は不合格とする。
	方法	論文の発表 60%、発表に対するグループ討論参加 40%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	医療臨床実習	
担当者	◎野添 新一 / 石井 利文 / 大島 英世 / 松本 宏明	
科目情報	心理臨床＜医療臨床＞ / 選択 / 前期 / 講義・実習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	医療分野において患者中心の医療を実現するためには、患者への十分な心のケアが不可欠であり、現在、精神科や心療内科、産科、小児科において心理臨床家の活躍する場が増加している。本実習は、「臨床人間学」や「医療心理臨床学」等の講義で習得した知識を実践に活かすことを目的として、心理士が活躍する医療機関等で実習を行い、心理臨床的援助の対象者に対する理解を深め、心理士の役割、他職種職員との連携の重要性を学ぶ。
	到達目標	1. 各施設に関する基礎的な知識を得られる。 2. 実践を通し、各施設における心理士の役割や他職種職員との連携についての知識が得られる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 講義 ① 精神科病院について (3) 講義 ② 少年鑑別所について (4) 講義 ③ デイ・ケアについて (5) 講義 ④ ホスピスについて (6) 講義 ⑤ 児童福祉施設について (7) 講義 ⑥ 介護保険関連施設について (8) 講義 ⑦ 医療臨床現場における近年の動向 (9) 実習事前説明会 (10)実習 (1) (11)実習 (2) (12)レポート作成指導 (1) (13)レポート作成指導 (2) (14)発表用原稿指導 (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・各施設の役割について下調べをしておくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。必要に応じてレジメを配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	各施設における心理臨床的援助の対象者について理解し、心理士の役割や他職種職員との連携等について理解したものを合格とする。実習や発表会を欠席した者は採点しない。
	方法	各施設でのレポート（60点）と発表（40点）で評価する。
備考	・講義①～⑥は福祉臨床実習と合同で行う。 ・上記15回の授業以外に発表会を開催する。発表会は10月初旬～中旬頃。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会福祉学 I	
担当者	山下 利恵子 / YAMASHITA, Rieko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	現代社会における社会福祉の理念や社会福祉を取り巻く状況、また社会福祉の発展過程を文化的特質、社会的背景とともに理解し、それらをふまえて、社会福祉・社会保険等の諸分野の基礎を理解する。
	到達目標	①社会福祉の理念、概念、目的を理解する。 ②社会福祉の諸分野の基礎知識を身につける。 ③社会保険の諸分野の基礎知識を身につける。
授業計画	(1) 社会福祉の理念・概念・目的① (2) 社会福祉の理念・概念・目的② (3) 現代社会の変化と社会福祉① (4) 現代社会の変化と社会福祉② (5) 社会福祉の発展① (6) 社会福祉の発展② (7) 社会福祉の分野① (8) 社会福祉の分野② (9) 社会福祉の分野③ (10) 社会福祉の分野④ (11) 社会保険制度の諸施策① (12) 社会保険制度の諸施策② (13) 社会保険制度の諸施策③ (14) 社会福祉行政と従事者 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各回の内容を振り返ること ・配布プリントはその時々で整理し理解するよう努めること。
使用教材・参考文献	使用教材	田畑洋一ほか編著『新社会福祉・社会保障』学文社、2012年
	参考文献	厚生統計協会編『国民の福祉の動向』 『厚生労働白書』ぎょうせい
成績評価の基準と方法	基準	社会福祉の理念、概念、目的、ならびに社会福祉および社会保険の諸分野について、基礎的な理解ができた者を合格とする。
	方法	授業への積極的参加度、参加態度およびレポート（30%）、定期テスト（70%）などにより総合的に評価する。2/3以上の出席を前提とする。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）

教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会福祉学Ⅱ	
担当者	山下 利恵子 / YAMASHITA, Rieko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	社会福祉実践は、人と人との関係を通して行われるため、援助者には、豊かな人間性ととも生活問題への客観的・科学的理解・知識等が求められる。そこで本講義では、社会福祉実践としての相談援助の基礎的な知識と技術について学ぶ。また実践と結びつけられるように、具体的な事例（演習）を通して相談援助の基本を学ぶ。
	到達目標	①相談援助の基本概念を理解する。 ②相談援助の形成過程について学び、その意義を理解する。 ③相談援助の援助関係等を学び、クライアント理解の視点を身につける。
授業計画	(1) 相談援助とは（事例） (2) 相談援助にかかる専門職 (3) 相談援助の形成過程 (4) 相談援助の理念 (5) 自己覚知 (6) 価値観と他者への理解① (7) 価値観と他者への理解② (8) 個人の価値と専門職の価値 (9) コミュニケーションの構造 (10) 援助的コミュニケーション① (11) 援助的コミュニケーション② (12) 相談援助における基本的応答技法の活用① (13) 相談援助における基本的応答技法の活用② (14) 相談援助の実践モデル・アプローチ (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各回の内容を振り返ること ・配布プリントはその時々で整理し理解するよう努めること。
使用教材・参考文献	使用教材	山田容『ワークブック社会福祉援助技術演習①対人援助の基礎』ミネルヴァ書房
	参考文献	社会福祉士養成講座編修委員会編『相談援助の基盤と専門職』中央法規、社会福祉士養成講座編修委員会編『相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規、社会福祉士養成講座編修委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規、白澤政和ほか編『社会福祉士相談援助演習』中央法規など
成績評価の基準と方法	基準	相談援助の基本概念・形成過程ならびに相談援助の援助関係等の基礎的な理解ができた者を合格とする。
	方法	授業への積極的参加度、参加態度およびレポート（30%）、定期テスト（70%）などにより総合的に評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会保障論	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、および医療保険法について判例を紹介しつつ講義します。
	到達目標	公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、および医療保険法の基本的事項を理解している。
授業計画	(1) 公的扶助法 1 (2) 公的扶助法 2 (3) 公的扶助法 3 (1)～(2)の小テスト (4) 公的扶助法 4 (5) 社会福祉法 1 (児童福祉法) (3)～(4)の小テスト (6) 社会福祉法 2 (児童福祉法) (7) 社会福祉法 3 (障害者福祉法) (5)～(6)の小テスト (8) 社会福祉法 4 (障害者福祉法、高齢者福祉法) (9) 介護保険法 (10) 社会福祉法 5 (7)～(9)の小テスト (11) 医療保険法 1 (12) 医療保険法 2 (13) 医療保険法 3 (10)～(12)の小テスト (14) 医療保険法 4 (15) 医療保険法 5	
自学自習	事前学習	・参考文献の該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の最初の 15 分間、小テストを行います (2～3 回おきに実施)。 ・小テストおよび期末試験に向けてプリント等を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを使用します。
	参考文献	加藤智章・菊池馨実・倉田聡・前田雅子『社会保障法 (第 5 版)』有斐閣 2013 年 ISBN 978-4-641-12495-0 ※後期開講の「社会政策」と共通です。
成績評価の基準と方法	基準	公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、および医療保険法の基本的事項を理解している場合に合格とします。
	方法	平常点 (小テスト 10 点×5 回) 50 点+期末試験 50 点で評価します。
備考	後期開講の「社会政策」では、年金保険法、労災保険法、雇用保険法、および社会手当法を講義します。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	障害者福祉論	
担当者	清原 浩 / KIYOHARA, Hiroshi	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	障害者が置かれている現実、夢、希望をある福祉施設とそこに通う障害者を通して明らかにします。また、福祉施設や地域福祉でのサポートのあり方を明らかにします。そのことを通して、受講生自身の生き方も振り返ることができるようにします。臨床福祉論といった角度からの授業になります。
	到達目標	「障害者福祉の現実がわかる」 「障害者の方々の夢、希望がわかる」 「障害者へのサポートのあり方がわかる」 「障害者の生き方がわかって、自分の生き方にも示唆が与えられる」
授業計画	(1) 「私と障害者」/VTR「自立へはばたく」 (2) 「ある福祉法人の理念」/VTR「響きあう父と子」 (3) 「ある福祉法人のあゆみ」/VTR「青空が見たい」 (4) 「ある福祉法人のめざすもの」/VTR「ゆきちゃん、ひろちゃん、がんばれ、がんばれ」 (5) 「夢のまち」構想とは/VTR「13年目のゴール」 (6) 「自治とは」/VTR「姉と兄に見守られて」 (7) 「自立とは」/VTR「新しい自分を探して」 (8) 「福祉文化とは」/VTR「ママ、太陽が見たい(1)」 (9) 「発達とは」/VTR「ママ、太陽が見たい(2)」 (10) 「労働とは」/VTR「はまなすの家」 (11) 「生活とは」/VTR「海君が笑った」 (12) 「サービスとは」/VTR「奇形ザルは警告する」 (13) 「市民運動と福祉」/VTR「二人の島旅」 (14) 「障害児療育の輪を広げる運動」/VTR「自立に向かうアメリカの障害者」 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・教科書の講義された部分の再読、再確認をすること。 ・視聴したビデオの内容の再度の想起、確認をすること。
使用教材・参考文献	使用教材	清原浩・黒川久美・中村隆司編著『『協同と協同』が拓く障害者の福祉』（2001）クリエイツかもがわ
	参考文献	適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	障害者へのサポートのあり方を理解できた場合を合格とします。
	方法	筆記試験。（試験 80%、受講態度 20%）
備考	「教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。」	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	地域福祉論	
担当者	十島 真理 / TOSHIMA, Mari	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	地域福祉の理念と内容について、地域の関わりを理解するとともに住民の役割について考える。福祉関係法や各制度の手續、内容等についても学びながら、利用者主体、自立支援、ノーマライゼーションといった福祉の理念と現実を考える。
	到達目標	福祉全般（高齢者福祉、障害者福祉の現状を中心）について理解し、地域福祉の概念、理念、サービスの実施主体等について学び、今後の課題について理解する。
授業計画	(1) 地域福祉とは：地域福祉の概念 (2) コミュニティの理解：地域福祉の基盤としてのコミュニティ (3) 日本における地域福祉の歴史 (4) 地域福祉の主体と対象 (5) 地域福祉の方法論 (6) 地域福祉と社会福祉協議会 (7) 地域福祉と権利擁護 (8) 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 (9) 地域福祉とボランティア、NPO (10) 地域での生活を支える地域福祉サービスの実際 (11) 地域福祉計画と地域福祉活動計画 (12) 地域福祉の財源 (13) 地域福祉と介護保険 (14) 地域福祉の実践例 (15) これからの地域福祉の在り方 まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだことを理解し、実践するよう努力する。
使用教材・参考文献	使用教材	『地域福祉の今を学ぶ 理論・実践・スキル』妻鹿ふみ子編著 ミネルヴァ書房
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	地域福祉の概念、理念、サービスの実施主体等を理解し講義の目的を達成されたものは合格とする。上記評価方法により合計が60点以上に達した者を合格とする。4回以上欠席した者は不合格とする。
	方法	テスト60% 授業参加態度40%、(小テスト20点、期末試験40点 宿題30点、受講態度10点)
備考	1. 教科書を購入しなければ受講できない。なお、教科書は共同購入する。 2. 教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	発達心理学Ⅱ	
担当者	松田 君彦 / MATSUDA, Kimihiko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	人間の誕生前後から死に至るまでの生涯を対象とした、発達に関する基礎的理論や捉え方を紹介する。また、さまざまな時期における対人関係が、生涯を通しての心の発達にどのような影響を及ぼすかを考える。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の心理的発達に関する基本的な概念や理論について理解する。</li> <li>人間は『関係的存在』であり、関係の質が発達を左右することを理解する。</li> </ul>
授業計画	(1) 発達心理学とは：発達の捉え方（遺伝か環境か、…） (2) 発達研究法：横断的研究と縦断的研究、他 (3) 発達の生物学的基礎：ポルトマンの研究 (4) ヒトにおける親子関係の特徴 (5) 胎児期・乳児期の発達：身近な人との出会い (6) 幼児期の人間関係：親との関係、仲間関係、…… (7) 乳幼児期の心理臨床的問題：愛着障害、…… (8) 児童期の発達：子どもの認知機能の発達（ピアジェ理論を中心に） (9) 児童期の発達：子どもの認知機能の発達（ピアジェ理論を中心に） (10) 児童期の発達：仲間関係の発達過程（児童期の出会いと別れ） (11) 青年期の発達：自分探しの旅、青年期の友だちとの出会いと別れ (12) 児童期・青年期の心理臨床的問題：ギャング・エイジの喪失、… (13) 成人期の発達：大人としての社会的責任 (14) 中年期・老年期の発達と問題 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。</li> <li>意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>適宜、授業の初めに前回の授業内容の復習を行う。</li> </ul>
使用教材・参考文献	使用教材	浜崎隆司・田村隆宏編著『やさしく学ぶ発達心理学』、ナカニシヤ出版、2011年。
	参考文献	授業中に、適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標が達成されたものを合格とする。
	方法	試験(70%)、授業への参加度(30%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	福祉心理臨床学	
担当者	大森 史隆 / OHMORI, Fumitaka 池寄 寛人 / IKEZAKI, Hiroto	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	医療・福祉の現場では、様々な医療・福祉職（コメディカルスタッフ）がそれぞれの専門性に従って、対象者へ関わるのが重要である。本講義では、医療・福祉の臨床現場の実際について共有することで、臨床心理学的な技法をより現場に即したのものにするための基礎的資料を提供する。
	到達目標	医療・福祉の現場で必要となる神経心理学的検査の特徴、支援の概要、脳機能の発達と衰退について述べるができる。
授業計画	(1) 小児における医療・福祉の臨床の実際 (2) 成人における医療・福祉の臨床の実際 (3) 高齢者における医療・福祉の臨床の実際 (4) 脳機能の発達と衰退 1 (5) 脳機能の発達と衰退 2 (6) 脳機能の発達と衰退 3 (7) 脳機能の発達と衰退 4 (8) 代表的な評価の概要 1 (9) 代表的な評価の概要 2 (10) 代表的な評価の概要 3 (11) 代表的な支援の概要 1 (12) 代表的な支援の概要 2 (13) 代表的な支援の概要 3 (14) 多職種共同 (15) 地域支援	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと
	事後学習	数回おきにレポートを提出
使用教材・参考文献	使用教材	特になし（レジュメを配布します）
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	医療・福祉の現場で必要となる神経心理学的検査の特徴、支援の概要、脳機能の発達と衰退について述べるができるれば合格とする。
	方法	終了試験 50%、小レポート 20%、受講態度 15%、出席態度 15%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	発達障害心理学	
担当者	山喜 高秀 / YAMAKI, Takahide	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育現場において、近年大きな問題であり課題となっている“発達に偏りや遅れを持つ子どもたち（発達障害児）”をどう理解し援助していくかということについて、「特殊教育」から「特別支援教育」への転換に至った経緯とその現状を概観しながら考えていく。あわせて、具体的に（1）知的障害（2）広汎性発達障害（3）学習障害など主な発達障害について学習していく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「特殊教育」から「特別支援教育」への転換について学ぶ。</li> <li>・ 発達障害の概論について学ぶ。</li> <li>・ 主な発達障害（1）知的障害（2）広汎性発達障害（3）学習障害（4）AD/HD（5）情緒障害などについて学ぶ。</li> </ul>
授業計画	(1) 「発達障害者支援法」、「特殊から特別支援への変遷」について学ぶ。 (2) 発達障害についての概論の学習。 (3) 知的障害（MR） (4) 自閉症スペクトラム① (5) 自閉症スペクトラム② (6) 注意欠陥・多動性障害（AD/HD）① (7) 注意欠陥・多動性障害（AD/HD）② (8) 学習障害① (9) 学習障害② (10) 情緒発達障害①不登校 (11) 情緒発達障害②行為障害 (12) 児童虐待① (13) 児童虐待② (14) 治療と援助について (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。</li> <li>・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	・ 学習した内容を他の関連科目の授業に役立てること。
使用教材・参考文献	使用教材	発達障害の心理臨床 2005 田中千穂子ら 有斐閣アルマ
	参考文献	山喜高秀 2004『社会福祉援助技術（情緒障害児短期治療施設）』創元社
成績評価の基準と方法	基準	「発達障害心理学」に関して、講義の到達目標の3項目の理解修得が達成されたものを合格とする。
	方法	受講態度（40%）総括レポート（60%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	福祉コミュニティ論	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	無前提に「良いこと」とされ「本音の議論」がしにくい「福祉ボランティア」活動を、様々な角度から科学する。ボランティアやNPOの活動に見られる政府・市場・市民の分担・協同と拮抗、現代社会における市民による福祉提供の位置づけ、「援助」的行為を考察する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズの多様化した現代社会では、公的社会福祉だけでは福祉は実現できず、市民活動による社会サービスの提供が不可欠であることを理解する。</li> <li>・ボランティアは公的社会福祉の補完を常に「期待される」存在であること、その背景や歴史、及びそのことがボランティア活動にもたらすもの理解する。</li> <li>・「援助－被援助」関係の社会関係的特性を理解する。</li> <li>・社会サービスを提供する市民活動としてのNPOについて、正確な知識を獲得し、市民に説明できる。</li> <li>・人々の生活の中に福祉ニーズをキャッチする感覚を育てる。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 科目オリエンテーション／「福祉」の多義性／福祉・教育・医療と「生活」／福祉の3つの源流</li> <li>(2) 福祉と人権感覚－人々の人権意識が社会の福祉の内容と水準を支える</li> <li>(3) 社会における「生活」維持の仕組－「生活資料・生活サービス」提供主体とその変化</li> <li>(4) 市民福祉やボランティア活動登場の背景と歴史</li> <li>(5) ボランティア活動の量的増加・質的上昇と浮上してきた論点</li> <li>(6) 行為論から見たボランティア－奉仕・慈善の理念との違い</li> <li>(7) ボランティア活動の社会的役割と活動動機の多様性</li> <li>(8) ボランティア活動の多様性</li> <li>(9) 援助論から見たボランティア－福祉ボランティア活動における「援助」と「自立」</li> <li>(10) ボランティア論のまとめ－社会構造を反映して、ボランティアは万能ではない</li> <li>(11) 社会貢献活動の組織化としてのNPO法人制度</li> <li>(12) NPO法人の組織編成・財政・課題</li> <li>(13) ボランティア・NPOの活動の発展のための条件を考える</li> <li>(14) 学校教育におけるボランティア学習を科学する</li> <li>(15) 総まとめとワークショップ</li> </ol>	
自学自習	事前学習	新聞・TVでのボランティアやNPOのニュースに目を通しておくこと。
	事後学習	授業に出てきた用語や概念、取り上げた社会事象については、よく復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	<p>三本松政之・朝倉美江編『福祉ボランティア論』有斐閣、2007年、ISBN 9784641123328</p> <p>岡本榮一他編『学生のためのボランティア論』大阪ボランティア協会、2006年、ISBN 9784873080536</p> <p>藤田久美編『大学生のためのボランティア活動ハンドブック』ふくろう出版、2008年、ISBN 9784861863349</p> <p>藤井良広『金融NPO：新しいお金の流れをつくる』岩波新書、2007年、ISBN 9784004310846</p> <p>川口清史、田尾雅夫、新川達郎編『よくわか』</p>
成績評価の基準と方法	基準	レポートの内容・水準が到達目標に到達しているかどうかを重視する。
	方法	単位レポート70%/①新聞記事切抜課題10%/②アクションペーパー等の課題20%
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>①毎回、ボランティアやNPO関連の新聞記事コピーにコメントを記して提出すること。</li> <li>②自身のボランティア活動やボランティア・イベント等への参加のアクション・レポートを提出すること。</li> </ol> その他、授業の進行に応じて作業課題を提示する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	高齢者心理学	
担当者	飯干 紀代子 / IIBOSHI, Kiyoko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	人間は生涯にわたって発達し続ける。ライフサイクルの最終ステージである老年期にも発達課題がある。講義では、知的機能、自我の発達における加齢の影響について概観し、高齢者の社会的・心理的適応とストレスの問題を考える。グループワークやディスカッションを行い、積極的・自主的な学習を励行する。
	到達目標	生涯発達心理学に基づき、ライフサイクルの最終ステージである老年期の発達課題を理解する。また、知的機能、情動機能、社会性などについて、低下する機能と充実する機能の双方向から多軸的に学ぶ。サクセスフル・エイジング、プロダクティブ・エイジング、100 寿者（100 歳以上の高齢者）の理論と実例を学び、well-being（よりよく生きる）ことについて、各々が考察できるようになる。
授業計画	(1) 人生について考える①（映画：最高の人生の見つけ方の視聴と個人での考察） (2) 人生について考える②（映画：最高の人生の見つけ方の視聴と個人での考察） (3) 人生について討議する①（グループディスカッション） (4) 人生について討議する②（発表と全体ディスカッション） (5) 生涯発達心理学 (6) 高齢者の身体 (7) 高齢者の心 (8) 高齢者の知的機能 (9) 認知症 (10)サクセスフル・エイジング、プロダクティブ・エイジング (11)100 寿者の特徴 (12)回想法①（回想法の理解） (13)回想法②（回想法の実践） (14)高齢者とのコミュニケーション (15)まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと
	事後学習	数回おきに発表あるいはレポート提出を行う
使用教材・参考文献	使用教材	なし
	参考文献	飯干紀代子：今日から実践－認知症の人とのコミュニケーション：感情と行動を理解するためのアプローチ. 2012、中央法規.
成績評価の基準と方法	基準	高齢者の心身の特徴を理解し、対応方法の具体的に述べることができれば合格とする
	方法	レポート 50%、小レポート 30%、受講態度 20%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	福祉心理臨床学演習	
担当者	飯干 紀代子 / IIBOSHI, Kiyoko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	受講者数は10名以内。対象者は福祉臨床コースの学生	
科目概要	授業内容	対人援助の基本的要件についてワークショップを通して学ぶ。また、福祉の三本柱である、児童、障害者、高齢者福祉に関する文献を講読し、臨床心理と神経心理の視点を交えたプレゼンおよび相互ディスカッションを行う。
	到達目標	対人援助の基本的要件について、傾聴、感情理解、コミュニケーションなどをワークショップを通して体験する。また、福祉の三本柱である、児童、障害者、高齢者福祉に関する文献を講読し、グループで抄録にまとめ、発表する。以上を通して、福祉と心理の融合を実践的に理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション・概説 (2) 対人援助の基礎ワークショップ 1 (3) 対人援助の基礎ワークショップ 2 (4) 対人援助の基礎ワークショップ 3 (5) 対人援助の基礎ワークショップ 4 (6) 対人援助の基礎ワークショップ 5 (7) 対人援助の基礎ワークショップ まとめ (8) レジユメ作成方法、プレゼンテーション方法 (9) 児童、障害者、高齢者福祉と臨床・神経心理学に関連した文献の講読 1 (10) 児童、障害者、高齢者福祉と臨床・神経心理学に関連した文献の講読 2 (11) 児童、障害者、高齢者福祉と臨床・神経心理学に関連した文献の講読 3 (12) 児童、障害者、高齢者福祉と臨床・神経心理学に関連した文献の講読 4 (13) 児童、障害者、高齢者福祉と臨床・神経心理学に関連した文献の講読 5 (14) 発表会 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと
	事後学習	数回おきにレポートを提出
使用教材・参考文献	使用教材	なし
	参考文献	①HR. シャプファー（無藤隆・他訳）：子どもの養育に心理学がいえること. 2001、新曜社 ②相川充：人づきあいの心理学. 2004、サイエンス社 ③清水哲郎：最後まで自分らしく生きるために. 2012、NHK 出版
成績評価の基準と方法	基準	福祉と臨床の共通点と相違点を理解し、文献をまとめてプレゼンテーションできれば合格とする
	方法	プレゼンテーション 50%、小レポート 20%、受講態度 30%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	発達心理学演習	
担当者	山喜 高秀 / YAMAKI, Takahide	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	発達心理学の個別領域（近接領域も場合によっては含む）から、学生自身が興味あるテーマを選択し、文献収集、資料作成、口頭発表、ディスカッションを行うことによって、発達に関する多面的な理解を深めていく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達心理学の個別領域（近接領域も場合によっては含む）について関心を持つ。</li> <li>関心を持ったテーマについての文献収集、資料作成の方法を学ぶ。</li> <li>自分で作成した資料の口頭発表を行う。</li> <li>他者の発表をもとにディスカッションを行う。</li> </ul>
授業計画	(1) 発達心理学の個別領域（近接領域も場合によっては含む）の概説 (2) 文献収集、資料作成についての学習 (3) 毎回2～3名ずつの口頭発表とディスカッション (4) 〃 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 「子どもの発達臨床」をテーマにした研究の進め方① (14) 「子どもの発達臨床」をテーマにした研究の進め方② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。</li> <li>意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した内容を他の関連科目の授業に役立てること。</li> </ul>
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	全国情緒障害児短期治療施設協議会（2002）「心をはぐくむⅢ」
成績評価の基準と方法	基準	「発達心理学」に関して、講義の到達目標の4項目の理解修得が達成されたものを合格とする。
	方法	受講態度（40%）総括レポート（60%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	福祉臨床実習	
担当者	飯干 紀代子 / IIBOSHI, Kiyoko 山喜 高秀 / YAMAKI, Takahide	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義・実習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	児童や障害者、および高齢者のウェルビーイングとQOLの向上を図るため、今日、社会福祉の分野において、臨床心理学の知識と技術に対する要請が非常に強くなってきている。本実習では、児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉の現場における臨床心理学の役割について体験学習を行う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉の現場について、事前に学習する。</li> <li>福祉施設現場への実習における留意点について学ぶ。</li> <li>福祉施設の見学実習（見学とレクチャー）。</li> <li>実習記録のまとめかたを学習する。</li> </ul>
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 講義 ① 精神科病院について (3) 講義 ② 少年鑑別所について (4) 講義 ③ デイ・ケア施設について (5) 講義 ④ ホスピスについて (6) 講義 ⑤ 児童福祉施設について (7) 講義 ⑥ 介護保険関連施設について (8) 実習事前説明会 (9) 福祉臨床実習 (1) (10) 福祉臨床実習 (2) (11) 福祉臨床実習 (3) (12) レポート作成指導 (1) (13) レポート作成指導 (2) (14) 発表用原稿指導 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・各施設の役割について下調べをしておくこと。
	事後学習	・学習した内容を今後の進路選択などに役立てること。 ・学習した内容を他の関連科目の授業に役立てること。
使用教材・参考文献	使用教材	特定の教科書は使用せず、随時参考資料を配布する。
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	「福祉臨床実習」に関して、講義の到達目標の4項目の理解修得が達成されたものを合格とする。
	方法	各施設の見学レポート（60点）と発表（40点）で評価する。
備考	・発表会は10月初旬～中旬頃に開催する。講義①～⑥は医療臨床実習と合同で行う。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	産業組織心理学Ⅱ	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講では、産業組織心理学の基礎理論、特に組織における人事、安全衛生、また、消費者の心理に関する理論について解説する。あわせて、本講で解説された理論を体験的に理解するための実習に取り組む。
	到達目標	個人が能動的にキャリアを発達させ、職場に適応することに関わる心理プロセス、行動の特色、そして組織に顧客として関わる消費者の心理について理解する。このことを通じ、将来、社会人として仕事に取り組むための心構えや自信をつちかう。
授業計画	(1) 人事評価（採用選考のプロセス） (2) 人事評価（上司から見た部下・部下から見た上司） (3) 人材育成（職場における成長の機会） (4) キャリア発達（個人のライフストーリーとしてのキャリア） (5) キャリアガイダンス（キャリア形成を支援する働きかけ） (6) 職場の安全衛生①（職場におけるストレス） (7) 職場の安全衛生②（職場におけるストレスの諸相） (8) 職場の安全衛生③（職場における反社会的行動） (9) 職場の安全衛生④（職場における事故防止） (10) リスクコミュニケーション・トレーニング (11) 消費者の心理①（購買行動の規定要因） (12) 消費者の心理②（コミュニケーションとしての販売促進） (13) 消費者の心理③（広告の技法） (14) 消費者の心理④（広告の内容分析） (15) 広告作成実習（CMシナリオ作成）	
自学自習	事前学習	「参考文献」を前もって読んでおくことで理解の助けになります。
	事後学習	適宜「おすすめの本」を紹介しますので読んでください。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	山口裕幸・金井篤子編 『よくわかる産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN9784623048717
成績評価の基準と方法	基準	産業組織心理学の基礎理論、特に組織における人事、安全衛生、また消費者の心理に関する理論について理解したものを合格とする。
	方法	本講で解説した産業組織心理学の基礎理論の理解を評価する。（出席態度 45%、試験 55%）
備考	グループワークが3回あります。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会心理学Ⅱ	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	社会心理学とは、人間の社会的行動に関する心理学的法則を明らかにしようとする学問である。本講義は、社会心理学Ⅰを踏まえ、社会心理学の各研究領域での基本的事項についてさらに専門的に解説する。
	到達目標	社会心理学の基本的事項を学び、理解することで、人の社会的行動に対する社会心理学的視座を得る。 社会心理学における基本的事項やキーワードについて、学問的背景についての理解を深めながら、論述できるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション：社会心理学の特色 (2) 社会心理学の主たる研究方法と研究対象 (3) 自己（セルフ） 自己概念，自己評価，複雑性と適応 (4) 自己呈示 対人コミュニケーション，動機づけ (5) 対人葛藤 葛藤解決の方略 (6) ジェンダー 性役割の社会化 (7) 態度変容 社会的態度，認知的一貫性，説得的コミュニケーション (8) 対人認知 印象形成，対人記憶，プロセスモデル，個人差 (9) 社会的認知 感情と社会的認知，ステレオタイプの認知 (10) 社会的推論 帰属理論，推論のエラーとバイアス (11) 社会的公正 (12) 対人魅力 関係の成立と維持と崩壊 (13) グループ・ダイナミクス 他者存在の影響，社会的ジレンマ (14) 文化と人間 個人主義と集団主義，異文化適応 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	社会心理学の基本的概念や用語について，関連する資料や書籍に目を通し，理解しておくこと。
	事後学習	必要な事柄は関連する資料等で各自調べ，補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	社会心理学的観点から種々の社会的行動について，論述できることを合格の目安とする。
	方法	筆記試験もしくはレポートを課す。[授業への取り組み 50%/筆記試験（レポート）50%]
備考	講義中，数回の研究調査・実験への参加依頼を行う可能性がある。これらを拒否することによる成績評価上の不利益はない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	健康心理学（メンタルヘルス）	
担当者	小林 純子 / KOBAYASHI, Junko	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	心身の健康を目指すために、ストレスの仕組みや心の健康に関する問題、精神的疾病への正しい知識を紹介する。また、実習やビデオ学習を通して、心の健康を保つための方法を体験的に学ぶ。
	到達目標	心が健康に及ぼす影響について理解を深めると共に、実習を通して、心の健康を保つための方法を学ぶ。また、学んだ知識を日常生活でどのように応用していくことが可能か、考えることができるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 心の健康とは何か (3) ストレスのメカニズム (4) ストレスマネジメント (5) 健康と生活習慣 (6) 健康とライフサイクル (7) 精神疾患① 神経症、うつ病、パニック障害など (8) 精神疾患② 気分障害、統合失調症など (9) 発達障害 (10) 依存症 (11) べてるの家 (12) 喪失体験の心理過程とケア (13) 医療とカウンセリング (14) 相談機関とソーシャルサポート (15) まとめ	
自学自習	事前学習	日常生活の中で生じたメンタルヘルスに関する疑問をまとめておき、もしあれば感想シートに記入すること。
	事後学習	学習した内容について復習をすること。関心のある内容に関しては参考文献を読んでおくこと。また、学んだ知識に関する疑問などを整理し、もしあれば次回の感想シートに記入すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	講義中に配布するプリントに記載する。
成績評価の基準と方法	基準	メンタルヘルスについての基本的な知識を習得し、その知識を自分の生活に応用する仕方を、考えることができることを持って合格の基準とする。
	方法	テスト 100%
備考	授業計画は、出席者の理解度や講義の進み具合によって変更する場合がある。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	コミュニケーション論	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成23年度以前入学生「共生社会形成論Ⅴ」	
科目概要	授業内容	本講義は、日常生活における対面的なコミュニケーションに焦点をあてた社会学の視点を中心にして、コミュニケーションを成り立たせている仕組みについて考察を進める。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを成立させる構造について目を向けるための、応用的な視点が獲得できる。</li> <li>・社会で経験する（これまでしてきた）コミュニケーションについて、反省的に考察することができる。</li> </ul>
授業計画	(1) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について (1) (2) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について (2) (3) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について (3) (4) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について (4) (5) 「動機」のコミュニケーション上の構成 (6) 対面的コミュニケーションにおける状況：物理構成面 (1) (7) 対面的コミュニケーションにおける状況：物理構成面 (2) (8) 対面的コミュニケーションにおける状況：認識的構成面 (1) (9) 対面的コミュニケーションにおける状況：認識的構成面 (2) (10) ダブルバインドというコミュニケーション (1) (11) ダブルバインドというコミュニケーション (2) (12) 三者関係のコミュニケーション：夏目漱石『こころ』から (1) (13) 三者関係のコミュニケーション：夏目漱石『こころ』から (2) (14) 現代サービス産業における「感情」を媒介としたコミュニケーション (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で配布される資料を前もって読んでおくこと。</li> <li>・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	配付された資料の語句の意味が分からない時はそのままにせず、主体的に調べて理解しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	E. ゴフマン『行為と演技』 誠信書房 1974年 ISBN 4414518016 ほか
成績評価の基準と方法	基準	自分の経験を基にして、授業で扱った視点の内面化が一定程度できていると認められれば合格とする。
	方法	評価はレポートでおこなう。授業中で不定期にModleでの課題提出を求める。レポート60%、課題40%の割合で評価を行う。レポートに関しては、配付資料や参考書の文
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報社会論	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成23年度以前入学生「共生社会形成論VI」	
科目概要	授業内容	本科目は、大量の情報を基盤として支えられる情報化社会について考えるための論点の提示を目的とする。特に、ブロードバンド化による社会構造、生活の変化、デジタル・ディバイド、メディア使用をめぐる個人の変化、メディア・リテラシーなどに焦点を当てて考察する。
	到達目標	・インターネットの普及がもたらした社会の変化について知ることができる。 ・個人、人間関係、地域の領域における情報化の影響についての視点を身につけることができる。
授業計画	(1) 情報化社会の論点について (2) 統計情報から見る情報化の進展 (1) (3) 統計情報から見る情報化の進展 (2) (4) 統計情報から見る情報化の進展 (3) (5) 統計情報から見る情報化の進展 (3) (6) 統計情報に見るデジタル・ディバイド (7) 情報化社会のリスク：サイバー犯罪について (1) (8) 情報化社会のリスク：サイバー犯罪について (2) (9) メディア使用と個人の変容 (1) ネット依存 (1) (10)メディア使用と個人の変容 (2) ネット依存 (2) (11)メディア使用と個人の変容 (3) メディアの向こうの他者の存在 (1) (12)メディア使用と個人の変容 (4) メディアの向こうの他者の存在 (2) (13)メディア・リテラシー 学問的背景 (1) (14)メディア・リテラシー 学問的背景 (2) (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・授業で配布された資料を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配付資料が多いので、授業後に再度読み直しておくこと。 ・Moodleの課題で復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	木村忠正 『デジタルデバイドとは何か』 岩波書店 2001年 4-0000-02717-4 岡田朋之 松田美佐編 『ケータイ社会論』 有斐閣選書 2012年 978-4-641-28215-7
成績評価の基準と方法	基準	情報化の流れが及ぼす社会的影響について一定の理解度があると認められれば合格とする。
	方法	レポート60%、授業中で不定期に課す課題提出40%の割合で評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会調査法	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	複雑な社会現象を捉えるための手段として、行政・政策・政治・経済・社会・文化や研究など様々な分野で重要性を持つ社会調査について、それが科学的で説得力をもつための基本的事項を学ぶ。受講生は、「とりあえず調査してみよう」の姿勢が危険であることを痛感するだろう。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会調査の有効性と限界、社会調査に求められる「科学性」を理解できる。</li> <li>・身近な社会調査である国勢調査・世論調査について基本的事項を確実に理解し、説明できる。</li> <li>・基本型である統計的調査・記述的調査について説明できる。</li> <li>・調査者に求められる倫理について、確実に理解できる。</li> </ul>
授業計画	(1) 社会調査—社会をとらえるためのツール／調査でわかること／個人の偶然と社会の確からしさ (2) 社会調査の歴史—人口統計と社会問題の調査／調査技術の高度化・多様化 (3) 社会調査の実例—官庁統計・国勢調査／世論調査／マーケティング・リサーチ (4) 社会調査の種類①その1—量的調査・統計的調査 (5) 社会調査の種類①その2—統計的調査の具体的調査方法 (6) 社会調査の種類②その1—事例調査・記述的調査 (7) 社会調査の種類②その2—事例調査の実例 (8) 統計的調査と事例調査の比較—それぞれの技法としての有効性と限界、相互補完の関係 (9) 科学的な調査の条件①—調査の企画・設計の科学／母集団・標本／全数調査・標本調査 (10) 科学的な調査の条件②—標本抽出の科学 (11) 科学的な調査の条件③—調査結果と現実とのズレの科学—標本誤差と非標本誤差— (12) 科学的な調査の条件④—調査票の質問文と回答選択肢の科学 (13) 科学的な調査の条件⑤—調査結果の評価の科学 (14) 調査者に求められる倫理—なぜ調査するのか？／してはいけない調査／無駄な調査 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	毎回、次回の授業のキーワードや専門用語を提示するので、参考文献・辞書・事典等で事前に調べておくこと。
	事後学習	不定期に授業内容の復習小クイズをするので、確実に復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	使用しない。
	参考文献	嶋崎尚子『社会をとらえるためのルール—社会調査入門』学文社, 2008年. ISBN9784762018336 大谷信介他『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房, 2013年. ISBN9784623066544 宮内泰介『自分で調べる技術—市民のための調査入門』岩波書店, 2004年. 谷富夫, 芦田徹郎編『よくわかる質的社会調査法』ミネルヴァ書房, 2009年. 佐藤郁哉『フィールドワークの技法：問を育てる・仮説をきたえる』新曜社, 2002年. 山田一成『聞き方の技術：リサーチ』
成績評価の基準と方法	基準	科目目標の到達を重視する。到達していないものは不合格とする。
	方法	レポート等の課題遂行 15%・定期筆記試験 85%
備考	社会調査の入門科目であるので、この科目の受講で実践的な調査スキルを習得することはできない。しかし、受講生は社会に氾濫する様々な安易な調査を批判的に観察してほしい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	産業組織心理学演習	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	リーダーシップに関する専門論文に親しむとともに、映像作品に見られるリーダーシップについてのディスカッションを通じ、リーダーシップの理論についての理解を深める。
	到達目標	リーダーシップについての理論的知識を、現実の問題解決に応用できる活きた知識に昇華させることを目指す。
授業計画	(1) 講義（リーダーシップの発生とリーダー行動の効果） (2) 映像作品「椿三十郎」（主演・三船敏郎）の観賞 (3) ディスカッション、理論解説 (4) 専門誌論文の要約発表① (5) 映像作品「陽はまた昇る」（主演・西田敏行）の観賞 (6) ディスカッション、理論解説 (7) 専門誌論文の要約発表② (8) 専門誌論文の要約発表③ (9) 講義（リーダーを取り巻く状況とリーダー行動の効果） (10) 映像作品「突入せよ・あさま山荘事件」（主演・役所広司）の観賞 (11) ディスカッション、理論解説 (12) 専門誌論文の要約発表④ (13) 映像作品「生きる」（主演・松本幸四郎）の観賞 (14) ディスカッション、理論解説 (15) 専門誌論文の要約発表⑤	
自学自習	事前学習	「参考文献」のリーダーシップに関するパートを前もって読んでおくことで理解の助けになります。
	事後学習	適宜「おススメの本」を紹介しますので読んでください。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	山口裕幸・金井篤子編 『よくわかる産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN9784623048717
成績評価の基準と方法	基準	リーダーシップについての理論的知識を理解し、現実の問題解決に用いる応用力を身につけたものを合格とする。
	方法	ディスカッションへの主体的な参加と、専門誌論文の要約発表を評価する。（ディスカッションへの参加 50%，専門誌論文の要約発表 50%）
備考	映像作品を見る回に参加しなければ次の回のディスカッションに参加できません。そのため2回分の欠席扱いとなりますのでご注意ください。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会心理学演習	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	主として社会心理学関連領域の研究論文を演習形式で講読する。数名のグループで発表用の資料（レジメ等）を作成し、発表を行う中で、心理学の研究知見や理論，研究方法等の理解を深める。
	到達目標	社会心理学関連領域の研究論文を読みこなし，他者に分かりやすく「説明する」ことが出来るようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション／グループ分け (2) 講読論文の選定と発表 発表の仕方，様式等についての解説 (3) 演習日 (4) 演習／発表 ① (5) 演習／発表 ② (6) 演習／発表 ③ (7) 演習／発表 ④ (8) 演習／発表 ⑤ (9) 演習／発表 ⑥ (10) 演習／発表 ⑦ (11) 演習／発表 ⑧ (12) 演習／発表 ⑨ (13) 演習／発表 ⑩ (14) 演習／発表 ⑪ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	社会心理学の基本的概念や用語について，関連する資料や書籍に目を通し，意味のわからない用語は調べておくこと。
	事後学習	必要な事柄は関連する書籍等でよく調べ補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	研究論文を読み深め，理解し，説明資料を準備し，分かりやすく説明できることを合格の目安とする。
	方法	授業への積極的な取り組み，受講態度を重視する。最終試験は課さない。[授業への取り組み（受講態度など）50%/演習 50%]
備考	初回授業時にグループ分けを行う。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会調査統計	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	社会調査を実施する能力を養成するための、官庁統計や社会統計として取り上げられることの多い基本的な項目・変数の学習、フィールドワーク論文が読めるための基本的知識の習得を目標にする。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計といった記述統計データの算出や数値の解釈を学習する。さらに、媒介関係や擬似相関、因果関係と相関関係といった、仮説検証手段で陥りやすい誤りについても習得する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>SPSS 統計パッケージを利用して、自分で定量的データの分析ができる。</li> <li>社会調査のための変数設定や加工、分析結果の読解ができる。</li> </ul>
授業計画	(1) 授業の目的：社会調査についての、各種報告書を用いた概要説明 (2) 社会調査で扱うデータの種類(1)変数の性質質的(名義)変数と量的(数的)変数 (3) 社会調査で扱うデータの種類(2)フェイスシートの構成(性別・年齢・居住形態など) (4) 社会調査で用いられるデータ集計 データの数量化(度数分布、代表値の意味) (5) 社会調査で用いられるデータ解析：質的変数の分析(1)クロス集計とカイ2乗分析 (6) 社会調査で用いられるデータ解析：質的変数の分析(2)多重クロス集計とエラボレーション (7) 社会調査で用いられるデータ解析：質的変数の分析(3)多重クロス集計とエラボレーション (8) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(1)T検定と分散分析 (9) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(2)相関係数 (10)社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(4)回帰分析、重回帰分析1 (11)社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(4)回帰分析、重回帰分析2 (12)社会調査のレファレンスとされる統計の種類 (13)47都道府県の姿を知ろう 国勢調査データを用いて (14)47都道府県の姿を知ろう 統計から見える産業・就業構造の国勢調査データを用いて (15)統計に頼らないリアリティ フィールドワーク論文の読み方 ドキュメント分析の方法	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>「参考文献」を前もって読んでよくと理解しやすくなります。</li> <li>意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>Moodle の課題を遂行すること。また、SPSS の操作については授業時間外にコンピュータ室で各自練習しておくこと。</li> </ul>
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しないが、卒業研究で質問紙調査に基づく実証研究を手がけることを念頭に入れている場合は購入を強く勧める。 主な資料としては、講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。
	参考文献	米川和雄・山崎貞政 著『超初心者向け SPSS の本統計解析マニュアル』2010 北大路書房 978-4-7628-2706-8 内藤統也(監修)、秋川卓也(著)『文系のための SPSS 超入門』プレアデス出版 4-7687-0863-3 岸 学(著)『SPSS によるやさしい統計学』オーム社 4-274-06620-7
成績評価の基準と方法	基準	授業で扱った変数の種類に応じた分析や検定方法を選択して、SPSS の出力結果が意味するところを解釈できると認められれば合格とします。
	方法	試験 70%、受講態度 20%、演習中に出される課題遂行 10%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会調査実習	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	実習を通して、調査の企画から実査を経て報告書の作成に至るまでの、「社会調査の全過程」をひととおり体験的に学習することを目的とする。2015年度は、引き続き、大学が立地する近隣の中学校区を対象にした、コミュニティに関する意識を調査する予定である。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査という課題に即した実行力・計画力が身に付く。</li> <li>・「調査論の原理を現実条件や実践に応用」の考え方ができる。</li> <li>・「説得力」を意識したデータの分析と表現ができる。</li> <li>・社会的な事柄への問題関心を高め、問題関心を集中させた調査報告書が書ける。</li> <li>・グループでの調査活動に主体的に参加し、それを通して、人間関係形成力やコミュニケーション力が身に付く。</li> </ul>
授業計画	(1) オリエンテーションによる調査テーマと実習 (2) 調査問題についての理解(1) (3) 調査問題についての理解(2) (4) 調査問題についての理解(3) (5) 現地踏査 (6) 現地踏査から得られた内容、印象の確認 (7) 調査設計の検討(1) (8) 調査設計の検討(2) (9) 調査設計の検討(3) (10) 調査設計の検討(4) (11) プリテスト (12) ワーディングチェックと調査票の検討 (13) 実査の準備作業 (14) 実査(1) (15) 実査(2)	(16) 回収調査票の点検・エディティング (17) ナンバリング・エディティング (18) データ入力作業(1) (19) データ入力作業(2) (20) データ入力作業(3) (21) 記述統計結果に基づくデータ確認 (22) 調査結果の分析(1) (23) 調査結果の分析(2) (24) 調査結果の分析(3) (25) 調査結果の分析(4) (26) 分析結果の共有(1) (27) 分析結果の共有(2) (28) 報告書作成に向けて(1) (29) 報告書作成に向けて(2) (30) 報告書作成に向けて(3)
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外に配付する報告書を作成するため、積極的に自分に不足する内容を補う努力を怠らないこと。</li> <li>・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	時間中でできなかった分析や報告書作成のための知識収集を怠らないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	大谷信介他 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房、2004年 978-4-6230-66544。 また、随時プリントを配布する。
	参考文献	別途、指示する。
成績評価の基準と方法	基準	調査プロジェクトへの参加姿勢が怠惰な者、問題関心の明晰性、分析とデータによる説得、その表現を含む「調査報告」としての最低水準に達していないものは不合格とする。
	方法	実習への主体的な参加状況 20%・最終の調査報告レポート 80%
備考	前期授業時と夏期集中時の2つをあわせて2単位の科目である。本科目の履修と同時、あるいは前年度までに科目「社会調査統計」の履修あるいは単位修得済みであること。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	社会産業実習	
担当者	◎神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki 野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 講義・実習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	現代社会に遍在する「広告」や「CM」、あるいは「ホームページ」などを社会的影響方略の一端として捉え、これらを分析・検討、作成することを通じて、効果的な「プレゼンテーション」について体験的に理解・学習する機会を設ける。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの日常生活や社会、さらには企業活動について、心理学的な視点で考えることが出来る。</li> <li>・グループ活動を通じて行われる各種タスクにメンバーと協力しながら、積極的に取り組むことが出来る。</li> <li>・課題遂行に必要なコンピュータや AV 機器の扱いやこれに伴う各種処理技術の獲得と向上。</li> </ul>
授業計画	(1) オリエンテーション/イントロダクション/グループ分け (2) CMを中心とした社会的影響方略についての概説（予備的知識の習得） (3) 【タスク 1】CM分析/HP分析/グループ毎に演習準備/資料作成 (4)            " (5)            " (6) 演習形式でグループ毎に発表 (7)            " (8)            " (9) 【タスク 2】作品制作 [CMあるいはHP] (10)           " (11)           " (12)           " (13)           " (14) 作品の発表/作品の相互レビュー (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連しそうな書籍や資料等に適宜目を通しておくこと。</li> <li>・不明な用語等あれば、各種資料にあたり調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループ内の協力作業を怠らないこと。</li> <li>・各種タスク遂行のための資料収集を行うこと。</li> </ul>
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	授業への取組と授業計画に示した複数のタスクをクリアすることを合格の基準とする。
	方法	複数の教員が独立して評価する。また受講生による相互評価も取り入れる場合もある。
備考	初回授業時にグループ分けを行う。4限目と5限目の両方とも登録、受講すること。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	心理臨床的援助演習	
担当者	◎山喜 高秀 / 大島 英世 / 小林 純子 / 野浪 俊子 / 溝口 和代	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	集中講義	
科目概要	授業内容	心理臨床的援助は、教育、医療、福祉など、様々な現場でその必要性が年々高まってきた。特に近年は、これまで広く知られている心理療法に加え、音楽療法をはじめとした芸術療法や動物介在療法、さらにはピア・ヘルピングなど応用的心理援助技法が注目されてきている。本授業では、心理臨床の現場で実際行われ、その効果も実証されている、こういった諸技法について、体験的に学習する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ピアヘルパーについて、その理論とスキルを体験的に学ぶ。</li> <li>・ 動物介在療法（アニマルセラピー）について、その理論とスキルを体験的に学ぶ。</li> <li>・ 音楽療法について、その理論とスキルを体験的に学ぶ。</li> </ul>
授業計画	(1) ピアヘルパーのためのカウンセリング概論 (2) 構成的エンカウンター (3) カウンセリング理論 (4) カウンセリングの言語的技法とロールプレイ (5) カウンセリングの非言語的技法とロールプレイ (6) 青年期の課題とピアヘルパーの留意点 (7) 動物介在療法（アニマルセラピー）の理論 ① (8) 動物介在療法（アニマルセラピー）の理論 ② (9) 動物介在療法（アニマルセラピー）の体験的学習 ① (10)動物介在療法（アニマルセラピー）の体験的学習 ② (11)音楽療法の理論 ① (12)音楽療法の理論 ② (13)音楽療法の体験的学習 ① (14)音楽療法の体験的学習 ② (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・学習した内容を今後の学生生活や進路選択に役立てること。
使用教材・参考文献	使用教材	ピアヘルパーハンドブック 日本教育カウンセラー協会 図書文化
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	心理臨床的援助に関して、講義の到達目標の3項目の理解修得が達成されたものを合格とする。
	方法	受講態度（40%）総括レポート（60%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	哲学概論	
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講義では、古代から近代に至る西洋の哲学史を概観する。自ら「哲学する」ことは、ともすれば独りよがりになるものである。哲学史を学び、適切なテーマと適切な考え方を先人から学ぶことで、哲学の全体像をつかんでもらいたい。
	到達目標	西洋哲学の歴史について一定の知識をもつ。 哲学の基本的問題を理解する。 哲学のテキストを理解し、その筋道を追体験できる。
授業計画	(1) 哲学するための哲学史 (2) 古代ギリシアの自然哲学 (3) ソクラテス (4) プラトン (5) アリストテレス (6) ストア派とエピクロス (7) デカルト (8) スピノザ (9) ロック (10) バークリ (11) ヒューム (12) カント (13) 現代の哲学 (1) (14) 現代の哲学 (2) (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	テキストの該当部分を再読・復習する。
使用教材・参考文献	使用教材	ヨースタイン・ゴルデル『ソフィーの世界』NHK 出版 1997 (ISBN4-14-08331-2 C0097)
	参考文献	岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』岩波ジュニア新書 2003 (ISBN4-00-500441-5) 岩田靖夫『いま哲学とはなにか』岩波新書 2008 (ISBN978-4-00-431137-9)
成績評価の基準と方法	基準	講義内容の理解が不十分な場合、不合格となることがあります。
	方法	期末試験 (80%) 授業時間内の課題提出物等 (20%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	倫理学概論	
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	倫理学の基本的な問題を、現代社会の状況にも照らし合わせながら考えてみたい。功利主義とカントの倫理学を基本に据えながら、生命倫理や環境倫理まで考察を広げるつもりである。
	到達目標	功利主義の基本的な考え方を理解する。 カント倫理学の基本的な考え方を理解する。 倫理学の諸問題について、自ら考え、表現することができる。
授業計画	(1) 人を助けるために嘘をつくことは許されるか① (2) 人を助けるために嘘をつくことは許されるか② (3) 10人の命を救うために1人の人を殺すことは許されるか① (4) 10人の命を救うために1人の人を殺すことは許されるか② (5) 10人のエイズ患者に対して特効薬が1人分しかないとき、誰に渡すか① (6) 10人のエイズ患者に対して特効薬が1人分しかないとき、誰に渡すか② (7) エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか① (8) エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか② (9) どうすれば幸福の計算ができるか① (10) どうすれば幸福の計算ができるか② (11) 判断能力の判断は誰がするか① (12) 判断能力の判断は誰がするか② (13) 他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか① (14) 他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか② (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・2回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	使用教材	加藤尚武『現代倫理学入門』講談社1997（ISBN4-06-159267-X）
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	講義内容の理解が不十分な場合、不合格となることがある。
	方法	期末試験（80％） 授業時間内の課題提出物等（20％）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会学概論	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	社会学は、普段は意識しない「日常性」の中に、人と人の相互作用、個人と社会の関係、個人と集団の関係、社会規範・秩序など人間社会を形づくっているものを探る学問である。本科目では、人と人が関わりあう活動領域で有効かつ必要な、社会的なものを見方を取り上げ、実践してもらうことを目的としている。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事柄について、個人的なことと社会との結びつきを認識できる。</li> <li>・「日常生活の自明性」を再考する発想ができる。</li> <li>・前近代から近・現代社会への変化のすう勢を理解できる。</li> </ul>
授業計画	(1) はじめに 社会学とはどのような学問か (2) 社会に対する2つのアプローチ (3) 私たちはいかにして社会と「馴染む」のか：自己意識の成立と社会化 (4) 私たちはいかにして社会と「馴染む」のか：地位と役割 (5) 私たちはいかにして社会と「馴染む」のか：演技という戦略 (6) 私たちはいかにして「社会」と馴染むのか：組織と集団 (7) 社会を捉える視点：様々な社会学理論(1) (8) 社会を捉える視点：様々な社会学理論(2) (9) 現代日本の姿 世帯構造の変化と高齢化(1) (10) 現代日本の姿 世帯構造の変化と高齢化(2) (11) 現代日本の姿 世帯構造の変化と高齢化(3) (12) 現代日本の姿 人間関係の変容(1) (13) 現代日本の姿 人間関係の変容(2) (14) 現代日本の姿 人間関係の変容(3) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・意味のわからない用語は事前に調べておくこと。
	事後学習	Moodleにて随時復習課題を提示する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	別途、指示する。
成績評価の基準と方法	基準	社会学が目指す、自明性への問いかけおよび社会と自分の経験との橋渡しがある程度達成していることを最低の合格基準とする。
	方法	定期試験 60%、Moodle 課題 40%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	法学概論	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	『法令遵守』と言われることがありますが、卒業後の社会人の常識として、「法学的思考方法」即ち「法学的ものの考え方」をしっかりと身に付けて下さい。
	到達目標	リーガルマインドの正体が理解できる。
授業計画	(1) 法とは何か (2) 法学的思考方法 (3) 国内法の法源 (4) 近代における社会正義の内容 (5) 現代における社会正義の内容 (6) 2つの事例を通じて社会正義の実現について考える (7) 明治憲法 (8) 日本国憲法の制定過程 (9) 国連憲章の精神と日本国憲法 (10) 国民主権主義 (11) 基本的人権尊重主義 (12) 恒久平和主義 (13) 国際社会と法 (14) 日本の領土問題 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す
使用教材・参考文献	使用教材	吉川仁編『法学入門』嵯峨野書院 2009年 4-7823-0377-7
	参考文献	中野進『2割司法(完結版)』近代文芸社 2004年 4-7733-7123-4
成績評価の基準と方法	基準	総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。
	方法	テスト(80%)、レポートなど(20%)
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	政治学概論	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	近代の政治思想から現代政治学までを概観します。近代や現代の思想家や政治学者たちが、政治をどう捉え、どう論じてきたのかを学び、自らが今日の政治を考えていく上での糸口をつかんでください。
	到達目標	政治学には様々な研究分野がありますが、講義ではまず社会契約論など近代の政治思想を概観し、続いて米国政治学を中心に説明していきます。それぞれの内容を把握し、幅広い政治学の見取り図が描けるようになることが、この講義の目標です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 近代の政治思想① (マキャベリ『君主論』) (3) 近代の政治思想② (ボダンの主権論) (4) 近代の政治思想③ (ホッブス『リバイアサン』) (5) 近代の政治思想④ (ロックとルソー) (6) 近代の政治思想⑤ (権力分立論ほか) (7) 現代の政治学① (米国政治学の系譜) (8) 現代の政治学② (メリアム、ラズウェルほか) (9) 現代の政治学③ (ベントレーほか) (10) 現代の政治学④ (政治システム論) (11) 現代の政治学⑤ (ラズウェルのエリート論ほか) (12) 現代の政治学⑥ (パワー・エリート論ほか) (13) 現代の政治学⑦ (権力関係説) (14) 現代の政治学⑧ (多元主義とその批判) (15) 結論	
自学自習	事前学習	教科書や参考文献等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	使用教材	初回の講義で指示します。
	参考文献	佐々木毅、鷲見誠一、杉田敦著『西洋政治思想史』北樹出版、1995年 福田歓一著『政治学史』東京大学出版会、1985年 中谷猛、足立幸男著『概説 西洋政治思想史』ミネルヴァ書房、1994年 福田歓一著『近代の政治思想』岩波新書、1970年 宇野重規著『西洋政治思想史』有斐閣、2013年 小笠原弘親、小野紀明、藤原保信著『政治思想史』有斐閣、1987年 岡崎晴輝、木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』ミネルヴァ書房、2008年 堀江湛、岡沢憲英編『現代政治学 (第2版)』法学書院、2002年 久米郁夫ほか著『政治学』
成績評価の基準と方法	基準	講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。
	方法	試験により評価します。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育社会学	
担当者	江阪 正己 / ESAKA, Masaki	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	読替科目：平成23年度以前入学生「教育社会学Ⅰ」	
科目概要	授業内容	子どもが社会的一人前になる基本的しくみや問題状況について考える。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達を&lt;社会化&gt;の視点から理解する。</li> <li>・&lt;社会化&gt;にかかわる様々な社会集団の役割について理解する。</li> <li>・子どもの発達の状況を学校・家庭・地域と関連づけて把握する。</li> <li>・子どもの問題行動の社会的性格とそれへの対応の基本を把握する。</li> </ul>
授業計画	(1) はじめに (2) 子どもの発達と社会化 (3) 家族集団と子どもの社会化 (4) 仲間集団と子どもの社会化 (5) 近隣集団と子どもの社会化 (6) 学校集団と子どもの社会化 (7) 中間まとめ (8) 少子化と子育て支援 (9) 学歴社会の変貌 (10) マス・コミュニケーションと社会化環境 (11) ニューメディアと子ども (12) 非行の現在 (13) 児童虐待 (14) 不登校・ひきこもり (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「使用教材」を前もって読んでおくこと。</li> <li>・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に、毎回、小コメントの提出を課す。</li> <li>・授業計画の適当な節目に、テーマを与えた小レポートを課す。</li> </ul>
使用教材・参考文献	使用教材	住田・高島編著『子どもの発達社会学 教育社会学入門』北樹出版 2011年 ISBN9784779302602
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・久富/長谷川編『教育社会学』学文社 2008年 ISBN9784762016554</li> <li>・岩永/稲垣『新版教育社会学』放送大学教育振興会 2007年 ISBN9784595307010</li> <li>・A.H. ハルゼー他編、広田他編訳『グローバル化・社会変動と教育 1』東京大学出版会 2012年 ISBN9784130513173</li> <li>・A.H. ハルゼー他編、刈谷他編訳『グローバル化・社会変動と教育 2』同前 2012年 ISBN9784130513180</li> <li>・A.H. ハルゼー他編、住田他編訳『教育社会学 第三のソリューション』</li> </ul>
成績評価の基準と方法	基準	到達目標に沿って総合的に判断し一定の水準に達していれば合格。
	方法	学期末終了試験 70%、受講態度 15%、小レポート 15%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	比較教育概論	
担当者	田口 康明 / TAGUCHI, Yasuaki	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	比較教育学は、日本とは異なる国や地域の教育制度や教育事情にふれることによって、その国や地域の理解に努めるとともに、翻って日本の教育に特質を明らかにするものである。そこでこの講義は、比較教育学と何かについて、諸外国の教育事情について紹介し、日本の教育との違いを検討する。
	到達目標	1) 比較教育学の歴史を理解する。近代の国民国家の成立との関連について把握する。 2) ポストモダンの状況が比較教育学にもたらしている影響について理解する。 3) 近年の国際教育調査の各国の教育改革への影響について理解する。 4) 教育の受容と変容について理解する。
授業計画	(1) ガイダンスーこの授業の目的・進め方等 (2) 比較教育学とは何 その1 伝統的比較教育学の内容と定義 (3) 比較教育学とは何 その2 比較教育学の歴史 (4) 揺らぎの中の比較教育学 その1 地域主義・超地域主義 (5) 揺らぎの中の比較教育学 その2 ポストモダンとは何か (6) 揺らぎの中の比較教育学 その3 ポストモダンと比較教育学 (7) 比較教育学の新領域 その1 多文化主義 (8) 比較教育学の新領域 その2 多文化教育 (9) 比較教育学の新領域 その3 多文化教育の実際 アメリカ (10)比較教育学の新領域 その4 " 日本 (11)比較教育学の新領域 その5 国際教育調査の衝撃 (12)比較教育学の新領域 その6 国際教育調査を受けた各国の教育改 (13)比較教育学の新領域 その7 国際教育調査を受けた各国の教育改 (14)比較教育学の新領域 その8 受容と変容の教育実践 (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 ・授業において次回の使用プリントを配布する。それを前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業内容・感想・質問などを毎回 400 字程度でまとめておくこと（リアクションペーパー）。毎回、提出を求める。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中で配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	比較教育学の理論と方法 ユルゲン・シュリーバー著 東信堂 2000 年 ISBN4-88713-370-7 比較・国際教育学（補正版） 石附実編著 東信堂 1998 年 ISBN4-88713-298-0 など
成績評価の基準と方法	基準	到達目標の 1) ～4) の理解
	方法	試験 80%、小レポート 10%、リアクションペーパーの提出度 10%
備考	授業時以外の問い合わせはメールで(taguchi@k-kentan. ac. jp)	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	特殊研究 I	
担当者	心理臨床学科教員	
科目情報	心理臨床<特殊研究> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	卒業論文の作成に向けて、主に研究の方法論を学び、興味関心を絞り込み、当該領域における問題意識を焦点化することを目的とする。またデータ収集を行うにあたっての倫理観を養う。
	到達目標	卒業論文で扱うテーマを絞り込み、当該領域における研究知見を整理し、研究を行うに当たっての問題意識を明確化できること。研究を行う上での厳粛適正な倫理観を持つこと。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 1. 興味・関心領域の絞り込み (3)                 " (4)                 " (5) 2. 「問題」の提出：問題意識を研究可能な形（問い）で示す (6)                 " (7)                 " (8)                 " (9) 3. 研究法の習得：文献収集の方法，論文講読と要約の仕方を学ぶ (10)                " (11)                " (12)                " (13) 4. 研究計画の作成 (14)                " (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	必要な事柄は、関連する資料や書籍等に当たり、丹念に調べ、理解を補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	卒業論文で取り組むテーマを絞り込み、先行研究をレビューし、問題意識を明確化すると共に、それらを研究可能な「問い」の形で提示できることが合格の目安となる。
	方法	授業への取り組みや成果を総合的に評価する。
備考	2年生以下の受講は認めない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	特殊研究Ⅲ	
担当者	心理臨床学科教員	
科目情報	心理臨床＜特殊研究＞ / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	特殊研究Ⅰ及びⅡを踏まえて、収集したデータの集計方法、処理の仕方や具体的解析の方法について学び、実行する。また研究成果の発表（プレゼンテーション）を行う。
	到達目標	収集したデータを整理し、適切な処理を行い、研究の結論を導くこと。また研究成果を分かりやすく、他者にプレゼンテーション出来ること。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 1. 収集したデータの整理、処理の方法を学ぶ (3)         " (4)         " (5) 2. データの解釈と再分析 (6)         " (7)         " (8) 3. 結果を整理し、研究知見をまとめる (9)         " (10) 4. 先行研究を踏まえ、得られた結果について考察する (11)        " (12) 5. プレゼンテーションの準備をする (13)        " (14)        " (15) 総まとめ（プレゼンテーションの実施）	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は、関連する資料や書籍等にあたり、丹念に調べ、理解を補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	データを整理し、適切な処理を行い、そこで得られた知見をまとめ上げ、明解なプレゼンテーションが行えることを合格の条件とする。
	方法	授業への取り組みや成果を総合的に評価する。
備考	3年生以下の受講は認めない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	特殊研究Ⅱ	
担当者	心理臨床学科教員	
科目情報	心理臨床<特殊研究> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	特殊研究Ⅰを踏まえて、卒業論文の作成に向けて、研究計画を立案し、研究材料の作成、計画の実行、データの収集を行う。
	到達目標	研究計画を作成し、データの収集を行うこと。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 1. 先行研究の詳細なレビュー (3)                 " (4) 2. 研究計画の立案 (5)                 " (6) 3. 研究材料の作成 (7)                 " (8) 4. パイロットスタディ（予備調査）の実施 (9)                 " (10) 5. 研究計画・研究材料の修正 (11)                " (12) 6. 研究計画の実行／データの収集 (13)                " (14)                " (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	必要な事柄は、関連する資料や書籍等にあたり、丹念に調べ、理解を補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	研究計画を作成し、計画を実行し、データを収集することを合格の目安とする。
	方法	授業への取り組みや成果を総合的に評価する。
備考	3年生以下の受講は認めない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル